

平成29年度  
教育委員会  
教育行政点検・評価  
報告書

(対象：平成28年度主要施策)

秦野市教育委員会



# 目 次

第1章	点検・評価の概要	1
1	点検・評価の目的	1
2	点検・評価の対象	1
(1)	教育委員会の活動状況	1
(2)	平成28年度基本方針に基づく主要施策	1
3	点検・評価の進め方	1
(1)	教育行政点検・評価の実施に関する主な経過	2
(2)	教育施策点検・評価会議	2
(3)	教育に関する学識経験者（総合評価者）	3
(4)	教育委員	3
第2章	教育委員会の活動状況	4
1	教育委員会会議の活動状況	4
(1)	教育委員会会議の開催状況	4
(2)	教育委員会会議の審議等の状況	5
ア	教育長報告	5
イ	議案	10
ウ	協議事項	12
エ	選挙	12
オ	その他	13
2	教育委員会会議以外の活動状況	14
3	教育委員会の活動状況についての点検・評価	22
第3章	平成28年度主要施策	25
1	「平成28年度主要施策」の点検・評価	25
(1)	自己点検・評価	25
(2)	教育施策点検・評価会議の評価	25
(3)	教育委員の評価	25
(4)	平成28年度主要施策一覧	27
(5)	点検・評価シート	28
第4章	学識経験者の総合評価	66



# 第1章 点検・評価の概要

## 1 点検・評価の目的

教育行政点検・評価については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会の活動及び具体の教育施策が「秦野市教育委員会基本方針」に沿って効果的に執行されているかを、教育委員会自らが事後に点検・評価を行い、活動及び施策の改善・充実を図るとともに、その結果に関する報告書を議会に提出及び公表し、市民に対する説明責任を果たすことを目的とします。

## 2 点検・評価の対象

平成28年度における「教育委員会の活動状況」並びに「教育プランに基づく主要施策（19施策）」について点検・評価を実施しました。

### (1) 教育委員会の活動状況

- ア 教育委員会会議の開催状況
- イ 教育委員会会議の審議等の状況
- ウ 教育委員会会議以外の活動状況

### (2) 平成28年度基本方針に基づく主要施策（19施策）

- ア 未来に向かって、たくましく生きる子どもを育みます。（5施策）
- イ 地域力を生かした子どもと地域が共に育ちあう学校づくりを推進します。（2施策）
- ウ 子どもが安全に安心して学ぶことができる快適な教育環境づくりを推進します。（3施策）
- エ 市民が地域の資源を生かして生涯にわたり学習活動を行い、生きがいのある充実した人生を送ることができるように努めます。（6施策）
- オ 快適で市民の役に立つ図書館を目指し、図書館サービスを充実します。（3施策）

## 3 点検・評価の進め方

点検・評価に当たっては、平成29年4月の教育委員会会議で協議した「平成29年度教育委員会教育行政点検・評価の実施方針」及び「平成29年度教育委員会教育行政点検・評価のスケジュール」により実施しました。

(1) 教育行政点検・評価の実施に関する主な経過

月 日	経 過
4月19日(水)	教育委員会会議で点検・評価の実施方針、スケジュール及び様式変更内容等について協議
5月16日(火)	教育委員会会議で点検評価の対象事業について協
6月30日(金)	第1回点検・評価会議
7月4日(火)~7月12日(水)	関係主管課等による自己点検・評価
7月20日(木)~8月7日(月)	点検評価委員による評価
7月21日(金)	教育委員会会議で活動内容等について協議
7月27日(木)	点検・評価に関する学習会開催
8月17日(木)	第2回点検・評価会議
8月25日(金)	教育委員会会議で点検・評価報告書について議決

平成28年度における教育委員会の活動状況については、(1)表のとおり、教育委員会会議の開催状況、審議等の状況、教育委員会会議以外の活動状況を点検し、「教育委員会の役割」、「教育委員会会議の活性化」、「教育委員会会議の透明性」及び「教育に関する情報収集」など4つの項目について教育委員による評価を実施しました。

(2) 教育施策点検・評価会議

区 分	氏 名	職 名 等
教育関係者	森 谷 忠	P T A 連 絡 協 議 会
	関野裕太郎	
	牛田 洋史	
学校教育関係者	加藤しのぶ	幼 稚 園 長 会 長
	杉崎 均	小 学 校 長 会 長
	関野信好	中 学 校 長 会 長
生涯学習関係者	岡田 榮子	社 会 教 育 委 員
	原 康	
	斎藤 由佳里	

平成28年度主要施策については、事務局各担当課等の自己評価と併せて、(2)表のとおり、P T A役員や元学校長の学校教育関係者、生涯学習関係者で組織する「教育施策点検・評価会議」から客観的な評価を受けました。

(3) 教育に関する学識経験者（総合評価者）

氏 名	所 属 ・ 役 職
朝 倉 徹 (学校教育関係)	東海大学課程資格教育センター所長
逢 坂 伸 一 (生涯学習関係)	東海大学名誉教授

(4) 教育委員

氏 名	職 名
望 月 國 男	委員長
高 橋 照 江	委員長職務代理者
片 山 恵 一	委員
飯 田 文 宏	委員
内 田 賢 司	教育長

(3)表の学校教育関係及び生涯学習関係に関する学識経験者による総合的な評価、意見等を踏まえ、(4)表の教育委員による点検・評価を実施しました。

## 第2章 教育委員会の活動状況

### 1 教育委員会会議の活動状況

#### (1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会では、原則として、毎月第3金曜日の午後1時30分から定例教育委員会会議、必要に応じて臨時教育委員会会議を開催しました。

#### 【平成28年度定例会及び臨時会】

開催日	会議	付議事件数
平成28年 4月15日(金)	4月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 1名	○教育長報告 12件 ○議案 1件 ○協議事項 3件 ○その他 1件
5月16日(月)	5月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 5名	○教育長報告 10件 ○議案 5件 ○協議事項 1件
6月24日(金)	6月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 2名	○教育長報告 11件 ○議案 2件 ○協議事項 1件 ○その他 1件
7月22日(金)	7月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 1名	○教育長報告 12件 ○議案 4件 ○協議事項 1件 ○その他 6件
8月19日(金)	8月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 2名	○教育長報告 9件 ○議案 2件 ○その他 3件
9月23日(金)	9月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 1名	○教育長報告 13件 ○その他 1件
10月12日(水)	10月臨時教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 0名	○教育長報告 1件 ○協議事項 1件
10月21日(金)	10月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 1名	○教育長報告 10件 ○協議事項 2件 ○その他 2件
11月11日(金)	11月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 5名	○教育長報告 5件 ○議案 5件 ○協議事項 1件 ○その他 1件
12月16日(金)	12月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 7名	○教育長報告 14件 ○議案 1件 ○協議事項 2件 ○その他 1件

開催日	会議	付議事件数
平成29年 1月18日(水)	1月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 1名	○教育長報告 12件 ○議案 2件 ○協議事項 5件 ○その他 1件
2月13日(月)	2月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 8名	○教育長報告 8件 ○議案 7件 ○協議事項 1件 ○その他 1件
3月17日(金)	3月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 2名	○教育長報告 13件 ○議案 2件 ○協議事項 3件 ○選挙 1件
定例教育委員会 12回 臨時教育委員会 1回		○教育長報告 130件 ○議案 31件 ○協議事項 21件 ○選挙 1件 ○その他 18件

## (2) 教育委員会会議の審議等の状況

平成28年度の教育委員会会議においては、議案31件の審議、協議事項21件の協議、選挙1件を行うとともに、教育長の臨時代理14件を含む130案件、その他18件について報告を受けて質疑を行いました。

### ア 教育長報告【130件】

番号	案件名	報告日
1	平成28年5月の開催行事等について	平成28年 4月15日
2	平成28年度園児、児童、生徒及び学級数について	
3	子ども等に関する事案について	
4	平成28年度学校教育関係事業について	
5	平成28年度教育支援教室いずみ運営要領について	
6	平成28年度教科学習支援員について	
7	市所蔵浮世絵展「浮世絵と江戸衣装」について	
8	平成28年度「秦野の歴史2016」春季特別展について	
9	「こどもの読書週間」について	
1	平成28年6月の開催行事等について	5月16日
2	平成27年度一般財団法人秦野市学校保全公社の経営状況について	

番号	案 件 名	報告日	
3	平成28年度園児、児童、生徒及び学級数について	5月16日	
4	第1回いじめを考える児童生徒委員会について		
5	平成28年度教科書展示会について		
6	平成28年度教育研究所研究について		
7	ミュージアム青空レクチャー「柳川竹上遺跡見学会」について		
8	秦野よむよむプラン2016(秦野市立図書館基本計画)について		
1	平成28年7月の開催行事等について		6月24日
2	平成28年秦野市議会第2回定例会について		
3	子ども等に関する事案について		
4	第2回いじめを考える児童生徒委員会について		
5	平成28年度英語教育にかかわる取組みについて		
6	平成28年度教育研究所公開講座の開催について		
7	平成28年度はだのっ子アワード事業について		
8	ミュージアムさくら塾「秦野市東地区の旧石器時代」について		
9	ふれあい通学合宿について		
10	はだの史・発見展「丹沢登山昔むかし - 大正～昭和30年代 -」について		
11	第29回夕暮祭短歌大会について	7月22日	
1	平成28年8月の開催行事等について		
2	子ども等に関する事案について		
3	第34回教育研究発表会について		
4	平成28年度ふるさと講座について		
5	はだの史・発見展 Part II 山の日記念「丹沢 山ものがたり」について		
6	市指定無形文化財「鶴巻下部大山灯籠行事」「瓜生野百人松明・盆踊り」について		
7	ミュージアムさくら塾「集落から見た西相模の古代社会」について		
8	美術館ワクワク探検「ガラスアート ガラス絵体験教室」について		
9	第7回親子川柳大会の作品募集について		

番号	案 件 名	報告日
10	第34回子どもの市展の作品募集について	7月22日
11	第43回親と子の音楽会の参加団体募集について	
12	第30回夕暮記念こども短歌大会作品募集について	
1	平成28年9月の開催行事等について	8月19日
2	武道（柔道）指導安全講習会の開催結果について	
3	パサデナ姉妹校への教員派遣研修について	
4	平成28年度全国学力・学習状況調査について	
5	平成28年度（27年度事業）公民館運営点検・評価について	
6	秦野たばこ資料展について	
7	平成28年度 第61回秦野市文化祭について	
8	谷鼎生誕120年記念講演会について	
9	平成28年度市民大学について	
1	平成28年10月の開催行事等について	9月23日
2	第3回いじめを考える児童生徒委員会の結果について	
3	第29回はだの子ども野外造形展について	
4	「特別支援学級学習交流会」について	
5	第1回いじめ対策連絡協議会の結果について	
6	ふるさと秦野検定の結果について	
7	夏季休業中の教育研修事業の結果について	
8	新規採用教員宿泊研修会の結果について	
9	秋季特別展「遺跡・遺物が語る！かながわ・秦野の歴史2016」について	
10	第46回秦野市展について	
11	丹沢野外音楽イベント「丹沢譚山2016」について	10月12日
12	花音朗読コンサートについて	
1	学校における事件事故等について	
1	平成28年11月の開催行事等について	10月21日
2	秦野市議会第3回定例会報告について	
3	全国学力・学習状況調査について	
4	中学生英語スピーチコンテストの結果について（市民自治振興課主管事業）	
5	第29回インターナショナルフェスティバルについて	
6	指定文化財特別公開について	

番号	案 件 名	報告日
7	宮永岳彦記念美術館 小田急コーナーの開設について	10月21日
8	古典の日・文学講演会について	
9	行政書士による講演会について	
10	子ども読書活動推進講座について	
1	平成28年12月の開催行事等について	11月11日
2	平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について	
3	全国学力・学習状況調査について	
4	第7回親子川柳大会の結果について	
5	夕暮記念こども短歌大会の結果について	
1	平成29年1月の開催行事等について	12月16日
2	秦野市議会第4回定例会報告について	
3	教育委員会表彰式・はだのっ子アワード表彰式について	
4	第32回のびゆくみんなの交流会の結果について	
5	第29回はだの子ども野外造形展の結果について	
6	第29回インターナショナルフェスティバルの結果について	
7	第4回いじめを考える児童生徒委員会の結果について	
8	いじめ問題への取組の再点検について	
9	ふれあい通学合宿の結果について	
10	広域連携中学生洋上体験研修の結果について	
11	第4回青空レクチャー「蓑毛小林遺跡見学会」について	
12	家庭教育支援講演会「夢への一歩」について	
13	市所蔵浮世絵展「江戸のにぎわい～舞いと調べ～」について	
1	平成29年「教育長年頭あいさつ」について	平成29年 1月18日
2	平成29年2月の開催行事等について	
3	学校に係わる事案等について	
4	平成28年度「学校生活全般における体罰の実態把握に関する調査」について	
5	文化財防火デーに伴う消防訓練について	
6	ミュージアムさくら塾⑤「二宮尊徳の業績とその後の報徳運動」について	

番号	案 件 名	報告日
7	はだの史・発見展「絵図で見る江戸・明治時代の秦野」について	平成29年 1月18日
8	親と子の音楽会について	
9	ふるさと講座公開講座 山田大樹監督が語る！「じんじん秦野編」(仮称)の魅力について	
10	国登録文化財について	
1	平成29年3月の開催行事等について	2月13日
2	文部科学大臣優秀教職員表彰について	
3	みなみがおか幼稚園のこども園化について	
4	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について	
5	ミュージアムさくら塾⑥「絵図で読み解く秦野のすがた」について	
6	報徳仕法を広める講演会について	
7	秦野市と小田急電鉄が連携 子ども絵画コンクール「身近なみんなの小田急線」について	
8	子ども読書活動推進事業講演会について	
1	平成29年4月の開催行事等について	3月17日
2	秦野市議会第1回定例会報告について	
3	学校生活全般における体罰の実態把握に関する調査の結果について	
4	就学指導の結果報告について	
5	教育支援教室いずみ事業報告について	
6	教科学習支援員の活動報告について	
7	平成28年度幼小中一貫教育の取組について	
8	第30回夕暮祭短歌大会(作品募集)について	

報告 番号	臨時代理の報告について	報告日
28 -8	市立小中学校教職員の人事上の措置について	4月15日
9	市立小中学校教職員の人事上の措置について	
10	秦野市曾屋ふれあい会館条例施行規則を廃止することについて	

報告 番号	臨時代理の報告について	報告日
1 1	秦野市教育委員会事務決裁規程の一部を改正することについて	5月16日
1 2	秦野市立幼稚園入園料及び保育料徴収条例施行規則の一部を改正することについて	
1 3	市立小中学校教職員の人事上の措置について	9月23日
1 4	平成28年11月定例教育委員会会議における議案の取消しについて	12月16日
2 9 - 1	平成28年度教育功労者等表彰・教育長表彰の被表彰者の追加について	平成29年 1月18日
2	平成29年度管理職候補者の推薦について	
3	秦野市立小中学校管理職の退職の内申について	3月17日
4	秦野市立小中学校管理職の任免の内申について	
5	教育委員会事務局職員（課長代理級以上）の任免について	
6	教育委員会職員（園長及び教頭）の任免について	
7	秦野市部等設置条例等の一部を改正することに係る教育委員会の意見聴取について	

### イ 議 案【31件】

議案 番号	案 件 名	審議日
2 8 - 2 0	協議書の一部を改正する協議について	平成28年 4月15日
2 1	秦野市学校運営協議会設置校を指定することについて	5月16日
2 2	秦野市立西中学校学校運営協議会委員の任命について	
2 3	平成29年度に秦野市立小学校及び中学校で使用する教科用図書の採択方針について	
2 4	秦野市社会教育委員の委嘱について	
2 5	秦野市立図書館条例施行規則の一部を改正することについて	
2 6	学校教育法施行細則の一部を改正することについて	6月24日
2 7	秦野市公民館条例施行規則の一部を改正することについて	
2 8	平成29年度に使用する小学校の教科用図書の採択について	7月22日
2 9	平成29年度に使用する中学校の教科用図書の採択について	

議案 番号	案 件 名	審 議 日
30	平成29年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書 の採択について	7月22日
31	秦野市いじめ問題対策調査委員会への諮問について	
32	平成27年度秦野市一般会計（教育費）決算について	8月19日
33	平成28年度教育委員会教育行政点検・評価について	
34	平成29年度秦野市立小・中学校県費負担教職員人事異動方針に ついて	11月11日
35	平成29年度秦野市立幼稚園教諭人事異動方針について	
36	平成28年度教育功労者等表彰・教育長表彰について	
37	平成28年度秦野市一般会計（教育費）の補正予算案について	
38	秦野市公共施設使用料の適正化に係る関係条例の整備に関する条 例制定に係る意見について	
39	秦野市立みなみがおか幼稚園の認定こども園化に係る基本方針に ついて	12月16日
29 -1	秦野市小中学校外国語指導業務委託に係る企画提案型事業審査会 規則を制定することについて	平成29年 1月18日
2	文化財保護委員の委嘱について	
3	平成29年度秦野市一般会計(教育費)予算案について	2月13日
4	平成28年度秦野市一般会計(教育費)の補正予算案について	
5	秦野市立学校の設置に関する条例の一部を改正することについて	
6	秦野市立幼稚園入園料及び保育料徴収条例の一部を改正すること について	
7	秦野市附属機関の設置等に関する条例の一部を改正することにつ いて	
8	秦野市部等設置条例等の一部を改正することについて	
9	秦野市職員定数条例の一部を改正することについて	
10	平成29年度秦野市教育委員会基本方針及び主要施策について	3月17日
11	秦野市立西中学校運営協議会委員の任命について	

## ウ 協議事項【21件】

番号	案 件 名	協議日
1	平成28年度教育委員会教育行政点検・評価について	平成28年 4月15日
2	コミュニティ・スクールの指定等について	
3	秦野市立図書館条例施行規則の一部を改正することについて	
1	平成28年度教育委員会教育行政点検・評価について	5月16日
1	秦野市いじめ問題対策調査委員会への諮問について	6月24日
1	平成28年度教育委員会教育行政点検・評価について	7月22日
1	本市を被告とする訴訟について	10月12日
1	平成29年度秦野市立小・中学校県費負担教職員人事異動方針について	10月21日
2	平成29年度秦野市立幼稚園教諭人事異動方針について	
1	秦野市立みなみがおか幼稚園の認定こども園化に係る基本方針について	11月11日
1	平成29年度秦野市一般会計予算（教育費）編成について	12月16日
2	上幼稚園と上小学校の施設の一体化について	
1	平成29年度秦野市一般会計（教育費）予算（案）について	平成29年 1月18日
2	小学校長による幼稚園長の併任について	
3	秦野市立幼稚園入園料及び保育料徴収条例の一部を改正することについて	
4	秦野市立学校の設置に関する条例の一部を改正することについて	
5	平成29年度教育委員会の組織・執行体制等について	
1	コミュニティ・スクールの指定等について	2月13日
1	秦野市教育・保育施設運営法人選定委員会規則を制定することについて	3月17日
2	秦野市立幼稚園入園料及び保育料徴収条例施行規則の一部を改正することについて	
3	秦野市部等設置条例等の一部改正に伴う秦野市教育委員会規則等の一部を改正することについて	

## エ 選挙【1件】

番号	案件名	協議・報告日
1	秦野市教育委員会委員長の選挙について	平成29年 3月17日

オ その他【18件】

番号	案件名	協議・報告日
1	平成28年度PPS事業者による電力供給について	平成28年 4月15日
1	平成28年度園・校における防災訓練（引き取り訓練）の結果について	6月24日
1	採択した陳情について	7月22日
2	第1回総合教育会議について	
3	東海大学チャレンジセンター病院ボランティアプロジェクト 絵本読み聞かせ会について	
4	平成28年度秦野市総合防災訓練について	
5	いじめを考える児童生徒委員会のSOSカードの配布について	
6	宝くじスポーツフェア ドリームベースボールについて	
1	幼稚園型一時預かり事業について	8月19日
2	位置情報を活用したスマートフォンの適切な利用について	
3	平成28年度中学生英語スピーチコンテストについて （市民自治振興課主管事業）	
1	要望書について	9月23日
1	先進地視察について	10月21日
2	公共施設の利用者負担の適正化について	
1	平成29年度予算編成について	11月11日
1	要望書について	12月16日
1	平成29年度教育委員会会議日程について	平成29年 1月18日
1	平成29年度教育委員会会議日程について	2月13日

## 2 教育委員会会議以外の活動状況

平成28年度においては、定例会のほか、総合教育会議、学習会、学校訪問、教育施策等についての視察、法令等の研修会、各種事業等の活動に69回（延べ123人）参加及び出席しました。

No.	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区 分
1	平成28年 4月 3日(日)	広畑ふれあい塾開講式 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加
2	4月 4日(月)	教育指導助手等研修会 【教育指導課】	支援の必要な児童生徒に、適切な指導及び必要な支援を行う指導助手への指導・助言を行う。	会 議
3	4月 4日(月)	特別支援学級介助員研修会 【教育指導課】	支援級の児童生徒に、適切な指導及び必要な支援を行う介助員への指導・助言を行う。	会 議
4	4月 9日(土)	秦野市P T A連絡協議会 【学校教育課】	27年度決算総会、28年度予算総会	会 議
5	4月11日(月)	神奈川県市町村教育委員会連合会 【教育総務課】	役員会及び総会 (鎌倉市)	会 議
6	4月21日(木)	中学校教育研究会 【教育指導課】	中学校教育研究会年度初め総会	会 議
7	5月 8日(日)	第1回いじめを考える児童生徒委員会 【教育指導課】	市内小・中学校代表児童・生徒、教員が集い、いじめ根絶に向けて意見交換を行う。 (堀川公民館)	会 議
8	5月11日(水)	就学指導委員会 【教育指導課】	本市に在住する心身に障害を持つ次年度就学児及び学齢児童・生徒に、障害の特性、程度等に応じて適正な就学指導を行う。	会 議
9	5月27日(金)	関東甲信越静市町村教育委員会連合会 【教育総務課】	総会及び研修会 (東京都八王子市)	会 議
10	5月27日(金)	秦野市幼稚園・こども園P T A連絡協議会 【教育総務課】	27年度決算総会、28年度予算総会 (東公民館)	会 議
11	6月 5日(日)	第2回いじめを考える児童生徒委員会 【教育指導課】	市内小・中学校代表児童・生徒、教員が集い、いじめ根絶に向けて意見交換を行う。 (教育庁舎3階大会議室)	会 議

No.	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区分
12	6月17日(金)	西中学校第1回学校運営協議会 【教育指導課】	教育委員会から任命された住民等が、権限と責任を持って学校運営を承認したり、教育活動に対して意見を述べる。	会 議
13	6月18日(土)	第29回夕暮祭短歌大会 【図書館】	表彰式	式 典
14	6月22日(水)	第1回社会教育委員会議 【生涯学習課】	開会あいさつ	事 業 参 加
15	6月23日(木)	平成28年度秦野市PTA連絡協議会会員研修会 【学校教育課】	交流研修会 (文化会館)	会 議
16	6月27日(月)	学校・教育訪問 (しぶさわこども園) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、管理運営上の諸問題について、情報交換を図るとともに、その解決に向けて協議及び指導・助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問
17	7月 1日(金)	学校・教育訪問 (つるまきこども園) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議、助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問
18	7月 4日(月)	学校・教育訪問 (渋沢中学校) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議、助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問
19	7月 9日(土)	ふれあい通学合宿閉校式 【生涯学習課】	来賓あいさつ (大根公民館)	事 業 参 加

No.	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区分
20	7月22日(金)	学習会 【教育総務課】	教育行政点検・評価	学習会
21	8月 2日(火) ～4日(木)	広域連携中学生交流洋上 体験研修 【生涯学習課】	統括責任者として研修に 参加	事 業 参 加
22	8月 5日(金)	東海大学柔道講習会視察 【教育指導課】	東海大学武道学科の教授 による中学校教員向け講習 会	事 業 参 加
23	8月16日(火)	第3回いじめを考える児 童生徒委員会 【教育指導課】	市内小・中学校代表児童・ 生徒、教員が集い、いじめ根 絶に向けて意見交換を行 う。  (堀川公民館)	会 議
24	8月24日(水)	第1回総合教育会議 【教育総務課】	首長と教育委員会が対等 な執行機関として、本市教 育行政に関する協議、調整 を行う。  (教育庁舎3階大会議室)	会 議
25	8月24日(日)	第34回教育研究発表 【教育研究所】	教育研究発表及び子ども を育む中学校区懇談会の取 組発表。  (文化会館)	事 業 参 加
26	9月18日(日)	中学生英語スピーチコン テスト 【教育研究所】	中学生による英語スピー チコンテスト  (文化会館)	事 業 参 加
27	10月7日(金) ～8日(土)	第22回全国報徳サミッ ト南相馬大会 【生涯学習課】	社会教育委員との合同行 政視察  (福島県南相馬市)	事 業 参 加
28	10月12日(水)	学校・教育訪問 (鶴巻小学校) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各 園・校を訪問し、管理運営上 の諸問題について、情報交 換を図るとともに、その解 決に向けて協議及び指導・ 助言を行う。  また、教育課程、保育・学 習指導、学校研究、教育課題 等について協議及び指導、 助言を行う。	学 校 訪 問

No.	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区 分
29	10月14日(金)	学校・教育訪問 (鶴巻中学校) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議、助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問
30	10月15日(土) ～16日(日)	北公民館まつり 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加
31	10月16日(日)	上公民館まつり 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加
32	10月17日(月)	学校・教育訪問 (北中学校) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議、助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問
33	10月22日(土) ～23日(日)	大根公民館まつり 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加
34	10月23日(日)	秦野市展写真の部表彰式 【生涯学習課】	あいさつ及び表彰状贈呈	式 典
35	10月25日(火)	学校・教育訪問 (北幼稚園) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、管理運営上の諸問題について、情報交換を図るとともに、その解決に向けて協議及び指導・助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問

No.	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区 分
36	10月26日(水)	学校・教育訪問 (北小学校) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議、助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問
37	10月28日(金)	秦野市児童音楽会 【教育指導課】	市内小学校代表学年児童が、文化会館大ホールで合唱・合奏の発表を行う (文化会館)	事 業 参 加
38	10月29日(土)	東公民館まつり 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加
39	10月31日(月)	学校・教育訪問 (東小学校) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、管理運営上の諸問題について、情報交換を図るとともに、その解決に向けて協議及び指導・助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問
40	11月 2日(水) ～4日(金)	第29回はだの子ども野外造形展 【教育指導課】	市内幼稚園、こども園、保育園、小・中学校、高等学校の幼児、児童、生徒の造形作品を野外に展示し観賞することを通して表現の喜びを味わい、併せて市民の造形教育に対する理解を深める。 (水無川河川敷)	事 業 参 加
41	11月 5日(土)	第29回インターナショナルフェスティバル 【教育指導課】	市内中学校生徒が日常の英語学習の成果を発表し、外国人とふれあうことを通して異文化を理解するとともに、国際感覚を養う。 (西公民館)	式 典

	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区 分
42	11月 6日(日)	秦野市展書道の部表彰式 【生涯学習課】	あいさつ及び表彰状贈呈	式 典
43	11月 7日(月)	学校・教育訪問 (東幼稚園) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議、助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問
44	11月11日(金)	のびゆくみんなの交流会 【教育指導課】	特別支援学級に在籍する児童・生徒が日常の学習の成果を発表し、交流しあうことを通して、社会性を育成し、児童・生徒、保護者及び教職員の交流を図る。 (総合体育館)	事 業 参 加
45	11月13日(日)	第4回いじめを考える児童生徒委員会 【教育指導課】	市内小・中学校代表児童・生徒、教員が集い、いじめ根絶に向けて意見交換を行う。 (堀川公民館)	会 議
46	11月15日(火)	学校・教育訪問 (東中学校) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議、助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問
47	11月17日(木)	神奈川県市町村教育委員会連合会 【教育総務課】	研修会 (大和市)	会 議
48	11月19日(土)	親子川柳大会 【生涯学習課】	あいさつ及び表彰状贈呈 (教育庁舎3階大会議室)	式 典
49	11月20日(日)	秦野市展美術の部表彰式 【生涯学習課】	あいさつ及び表彰状贈呈 (文化会館)	式 典
50	11月21日(月) ～22日(火)	先進地視察 【教育総務課】	本市教育行政の発展のため先進地の視察を行う。 (茨城県つくば市)	視 察

No.	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区 分
51	11月26日(土)	第30回夕暮記念こども短歌大会 【図書館】	表彰式 (文化会館)	式 典
52	11月26日(土) ～27日(日)	西公民館まつり 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加
53	12月 3日(土)	渋沢公民館まつり 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加
54	12月10日(土)	南公民館まつり 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加
55	12月19日(月)	第2回総合教育会議 【教育総務課】	首長と教育委員会が対等な執行機関として、本市教育行政に関する協議、調整を行う。 (教育庁舎3階大会議室)	会 議
56	平成29年 1月 5日(木)	新年賀詞交歓会 【秘書課】	新年賀詞交歓会への参加(文化会館)	式 典
57	1月 9日(月)	秦野市新成人のつどい 【こども育成課】	新たに成人する者を祝い、励ますための式典 (文化会館)	式 典
58	1月21日(土)	教育功労者等表彰式 【教育総務課】	本市の教育や学術等の振興に貢献した個人・団体を表彰する。 (総合体育館)	式 典
59	1月21日(土)	はだのっ子アワード表彰式 【教育研究所】	「はだのっ子アワード事業」において優秀な成績を修めた児童・生徒を表彰する。 (総合体育館)	式 典
60	1月27日(金)	小学校教育研究発表会 【教育指導課】	公開授業および講演会 (堀川小学校)	事 業 参 加
61	1月28日(土)	家庭教育講演会 【生涯学習課】	講演会開催の主催者挨拶 (保健福祉センター)	事 業 参 加
62	1月30日(月)	学校・教育訪問 (渋沢小学校) 【教育総務課・ 教育指導課】	教育委員会関係者が、各園・校を訪問し、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議、助言を行う。 また、教育課程、保育・学習指導、学校研究、教育課題等について協議及び指導、助言を行う。	学 校 訪 問

No.	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区 分
63	2月11日(土) ～12日(日)	本町公民館発表会 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加
64	2月17日(金)	管内指導主事会議 【教育指導課】	中管内指導主事による協 議及び情報交換 (教育庁舎3階大会議室)	会 議
65	2月17日(金)	市町村教育委員研究協議 会 【教育総務課】	研修会 (文部科学省)	会 議
66	2月18日(土) ～19日(日)	鶴巻公民館まつり 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加
67	2月19日(日)	親と子の音楽会 【生涯学習課】	音楽会開催の主催者挨拶 (文化会館)	事 業 参 加
68	2月26日(日)	宮永美術館子ども絵画 コンクール表彰式 【生涯学習課】	主催者あいさつ及び表彰 状贈呈 (宮永美術館)	式 典
69	3月11日(土) ～12日(日)	南が丘公民館まつり 【生涯学習課】	来賓あいさつ	事 業 参 加

※所管課名は平成28年度の名称を記載しています。

### 3 教育委員会の活動状況についての点検・評価

教育委員会の役割、教育委員会会議の活性化・透明性及び教育に関する情報収集の4つの視点から点検し、教育委員による評価を行いました。

点検項目	内容 ( )は27年度	評価・意見
教育委員会の役割について	<b>指揮監督等</b> ○指揮監督案件数 201件(228件) ○改善・充実等の指示・意見等数 21件(18件) ○反映等の結果 反映・実施        15件(10件) 検討・一部反映    4件(4件) 現状維持・未実施  2件(4件)	<p>様々な分野の教育委員が判断に偏りが出ないように、審議や協議等を行い、住民のニーズを適切に反映した教育行政の実現に向けて議論を行ったことにより、改善・充実等の指示や意見をおおむね反映させることができた。</p> <p>今後も教育を取り巻く現状や住民のニーズの把握に努め、課題解決に向けて適正な活動を行っていききたい。</p>
教育委員会会議の活性化について	<b>開催回数</b> ○定例会  12回(12回) ○臨時会  1回(1回) ※規則で定める回数は毎月1回 ○欠席委員数  延べ0人(延べ0人)  <b>教育委員会会議以外の活動</b> ○学校・教育訪問12回(12回)延べ12人(14人) ○学習会1回(1回)延べ5人(5人) ○会議19回(16回)延べ40人(43人) ○視察1回(1回)延べ4人(4人) ○事業参加24回(8回)延べ34人(21人) ○式典等12回(6回)延べ28人(21人)  <b>活性化への取組</b> ① 資料は、会議開催3日前に事前配布 ⇒報告時間の短縮により質疑応答時間を確保 ② 教育委員会の規則等の改廃は、教育委員の意見を反映するため、議案提出の前月定例会で協議事項として提出 ③ 次年度予算は、編成の始まる時期に協議し、教育委員の意見を反映	<p>毎月開催する定例会のほか、緊急性を要する臨時会を1回開催した。定例会の開催に当たっては、会議資料を事前に送付し、課題に対する内容を十分に把握したうえで、教育施策の充実に向けた審議や協議等に努めた。</p> <p>教育委員会会議以外の活動としては、総合教育会議、学校訪問、学習会、各種事業等について、合計69回、延べ123人が参加した。</p> <p>中でも27年度から開始した総合教育会議については、首長と教育委員会が対等な執行機関として、教育行政に関する協議及び調整を行い、教育施策の方向性の共有に努めた。また、学校・教育訪問において、授業の見学や教職員等との意見交換を行い、授業改善や管理運営上の諸問題について情報交換を図るとともに、その解決に向けて協議及び指導・助言を行った。</p> <p>今後も、定例会の一層の活性化を図るとともに、教育行政全般にわたり、必要な審議や協議を行い、慎重かつ迅速な審議に努めながら、教育委員会並びに教育委員の活動の更なる充実を図っていききたい。</p>

点検項目		評価・意見
教育委員会 会議の透明 性について	<b>傍聴者数</b> ○延べ36人(延べ58人)	<p>教育委員会会議の傍聴者数は、27年度に比べ減少したが、会議録等をホームページに公開するなど、様々な情報発信を行い、透明性の確保に努めている。</p> <p>教育行政を取り巻く環境は多様化、複雑化しており、課題解決に向けて地域と連携した取組が求められている中で、教育行政について、市民に広く周知する必要性は高くなってきていることから、引き続き、市ホームページや広報紙などを活用して本市の取組や対応状況等の情報発信の充実を図り、透明性の確保に努めていく。</p>
	<b>会議録の公開</b> ○会議録承認後、ホームページ及び市役所内にある行政情報閲覧コーナーで公開	
	<b>情報発信</b> ○教育委員の名簿をはじめ、教育委員会の概要を「秦野の教育」として、市ホームページで紹介 ○教育委員会の開催日時、予定される議題等をホームページに事前掲載し、公告	
教育に関する 情報収集 について	<b>視察等</b> ①事務局の学校訪問等に教育委員が同行し、学校現場の状況を把握 12回(12回) ②教育施策等の視察を実施 1回(1回)	<p>教育委員の活動を活発に、適切に行うためには、教育行政、学校現場等の教育を取り巻く状況の把握が重要となってくる。そのため、学校・教育訪問等に教育委員が同行し、子どもたちが安全・安心な学校生活を送れるよう、引き続き、教職員や児童生徒の意見を聴く場に積極的に参加するとともに、本市が抱える課題に対して有効な方針を検討するため、先進自治体への視察や、研修会等で見識を深め、国等の最新の状況を把握し、意見交換などを積極的に行っていく必要があると考える。</p>
	<b>研修会等への参加</b> ○必要に応じ、研修会等へ参加 3回(3回)	

## 教育委員会の活動状況に対する総合評価

平成27年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に伴う、新たな教育委員会制度において、設置が義務付けされた総合教育会議を平成28年度は2回公開により開催した。この会議では、学校現場におけるICTを活用した環境整備、幼小中一貫教育と義務教育学校への対応、平成29年度教育予算など、直面する教育課題をテーマに協議を行うなど、複雑化・多様化する様々な教育課題に対し、市長と教育委員会がお互いの役割と責任を持って、適切に対処していくという基本原則のもとに、今後の教育施策の方向性を共有することで、より一層、緊密な連携を図ることができた。

また、教育委員会では、教育大綱に即して市長との教育施策の方向性を共有しつつ、学校訪問をはじめ、様々な事業・行事に積極的に参加、あるいは先進地視察などを通じて、教育課題の実態把握を行い、計画初年度の秦野市教育振興基本計画「はだのわくわく教育プラン」及び「第3次秦野市生涯学習推進計画」の推進に努めた。

このほか、いじめ・不登校対策では、9年目を迎えた「秦野市いじめを考える児童生徒委員会」において、児童生徒が悩みや不安を抱えたときの相談する体制づくりの一つとして「はだのっ子SOSカード」を作成し、市内全児童生徒に配布するなど、本市独自のいじめ防止対策に努めるとともに、いじめ問題対策調査委員会及びいじめ問題対策連絡協議会において、いじめ防止等の実効的な対策に関する議論や、教職員のいじめ防止への意識向上に努めた。

さらに、コミュニティ・スクール事業においては、従来から本市で取り組んできた幼小中一貫教育や、子どもを育む中学校区懇談会事業等、秦野の特色を生かしながら、西中学校をコミュニティ・スクール（学校運営協議会設置校）に、また、堀川小学校を研究実践校に指定し、保護者や地域住民の参画を得ながら学校運営の改善や学校支援の充実を図るため、地域とともにある学校づくりを進めた。

教育課題が複雑化、多様化する中、引き続き、本市の豊かな地域資源を生かし、教育目標に掲げた人づくり、快適な生涯学習の環境づくりに努めていきたい。

## 第3章 平成28年度主要施策

### 1 「平成28年度主要施策」の点検・評価

#### (1) 自己点検・評価

ア わくわく教育プラン（秦野市教育振興プラン）に位置付けられた19の主要施策について、主管課等が点検・評価シートにより、自己点検・評価を実施しました。

イ 自己点検・評価をするに当たり、「成果に対する評価」、「取組に対する評価」、「改善の必要性」、「課題及び今後の方向性等」、「教育プラン目標達成に向けての進捗状況」の5項目について、主管課等及び部長の評価をA、B、C、Dの4段階で自己点検・評価を行いました。

#### (2) 教育施策点検・評価会議の評価

ア P T A役員や元学校長の学校教育関係者、社会教育委員、図書館協議会委員で組織する「教育施策点検・評価会議」において、主管課等が自己点検・評価した主要施策について客観的な評価を行いました。

イ 教育施策点検・評価会議においても、自己評価と同様に、A、B、C、Dの4段階での評価を行いました。

#### (3) 教育委員の評価

##### ア 点検・評価の方法

わくわく教育プラン（秦野市教育振興プラン）に位置付けられた19の主要施策について、主管課等と施策の取組内容等について相互に意見交換をする学習会を実施し、教育施策点検・評価会議の評価を踏まえて各施策について点検・評価を行いました。

##### イ 点検・評価の表記

###### (ア) 文章表記（要旨）

各教育委員から出された意見、要望、協議内容等を列記しています。

###### (イ) 4段階評価（ランク）

各項目について、次表のとおり、A、B、C、Dの4つのランクでの教育委員会としての評価を行いました。

ランク	評価A～Dの内容について
<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p style="text-align: center;">確実な成果を出している</p>	<p>○目標値に向けて計画のとおり実施することができ、優れた取組が見られた。</p> <p>○当初の目的を達成し、事業が完了した。</p>
<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p style="text-align: center;">一定の成果を出している</p>	<p>○施策としての充実した事業が行われた</p> <p>○目標値への具体的な取組が十分に表れている。</p>
<p style="text-align: center;"><b>C</b></p> <p style="text-align: center;">やや成果が低い</p>	<p>○取組方法等を見直すことにより今以上の成果が期待できる。</p> <p>○施策推進の計画や方法を再考する必要がある。</p> <p>○更に工夫・改善が必要である。</p> <p>○一定の成果を上げて事業が完了したが、課題が残った。</p>
<p style="text-align: center;"><b>D</b></p> <p style="text-align: center;">成果が低い</p>	<p>○費用対効果がほとんど上がっていない。</p> <p>○内容の抜本的な見直しや、廃止の検討が必要である。</p>

(ウ) 平成28年度主要施策（19施策）の点検・評価結果

A評価： 1施策

B評価： 16施策

C評価： 2施策

D評価： 0施策

この評価結果を今後の施策実施に反映し、市民ニーズを的確に捉え、常に工夫改善をすべきであると考えます。

(4)平成28年度事業主要施策一覧

No.	施策名	評価
1 未来に向かって、たくましく生きる子どもを育みます。		
1	確かな学力の定着・向上	B
2	いじめ等の対策の推進	B
3	不登校対策の推進	C
4	学校におけるICT化の推進	B
5	公立幼稚園の配置の見直し	A
2 地域力を生かした子どもと地域が共に育ちあう学校づくりを推進します。		
6	学校支援づくりの推進	B
7	支援教育の推進	B
3 子どもが安全に安心して学ぶことができる快適な教育環境づくりを推進します。		
8	西中学校体育館等複合施設の整備	B
9	学校施設長寿命化の推進	B
10	教育施設の一体的整備の研究	C
11	学校図書館充実のための学校司書の充実	B
4 市民が地域の資源を生かして生涯にわたり学習活動を行い、生きがいのある充実した人生を送ることができるように努めます。		
12	公民館事業の充実	B
13	魅力ある地域学習の推進	B
14	図書館サービスの充実	B
15	子どもの読書活動の支援	B
16	公民館施設長寿命化の推進	B
17	施設の長寿命化計画等の推進（図書館）	B
5 市民の文化活動の充実を図るとともに、郷土の伝統文化の伝承と文化財の保存・活用を通じ、郷土愛を育みます。		
18	文化財・歴史文化資料等の活用の推進	B
19	特色ある図書館づくりの推進	B

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育指導課 教育研究所
------	----------------

No.1	施策名	確かな学力の定着・向上	教育 プランの 位置付け	1-1-1
------	-----	-------------	--------------------	-------

施策の概要	目的	家庭・地域との連携のあり方、子どもの実態に基づいた主体的な問題解決学習、体験的学習の充実等を図り、特色ある園・学校づくりの研究を推進し、「確かな学力」の定着を図る。
	達成すべき目標	全国学力・学習状況調査による学習意欲に関する集計値が全国平均値以上

28年度事業内容及び工夫・改善事項	<p>全ての市立幼稚園・こども園、小・中学校において、特色ある教育活動や地域性を生かした教材の開発、地域の教育力を活用した体験的な学習等、教育活動の充実に努めた。市内小中学校へ教育指導助手を派遣し、児童生徒への教科指導による基礎的・基本的事項の内容理解及び定着を図ると共に、生活指導による基本的生活習慣の形成等学校への適応力を高めた。</p> <p>また、小・中学校それぞれに研究実践校を指定し、公開授業研究会を開催し、実践を通じたより良い指導方法を教員が共有し合った。全国学力・学習状況調査の分析・活用について、「全国学力・学習状況調査分析・検討委員会」を組織して学力等の傾向を分析し今後の指導の方向性をまとめ、課題解決のための教材を作成・配布した。さらに大学との協力、連携により教職を目指す学生を教科学習支援員として全小中学校へ派遣した。</p>
-------------------	---

施策の経費	予算事業名	09・02・03・0100 教育研究費（小学校） 09・03・03・0100 教育研究費（中学校） 09・04・01・0100 教育研究費（幼稚園） 09・02・01・0400 小学校教育指導助手派遣事業費 09・01・02・1400 問題行動等対策指導助手派遣事業費 09・01・02・1000 学習支援事業費					
	【単位：千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	61,002	62,441	70,173			
	決算額	59,501	59,761				
	執行率(%)	97.5	95.7				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	全国学力・学習状況調査による学習意欲に関する集計値（肯定的な回答の小中学校の国語・数学算数の平均値）	59.3	60	59.5	-	-	-
	教育指導助手の派遣人数（H29からは教育支援助手と改称）	60	61	64	-	-	-
			61	-	-	-	-

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	C	中学校は目標値に達しているが、小学校では僅かに目標値に達成していない。通常学級において発達に特性がある児童生徒が増加しており、対応が難しい。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	研究実践校の取組を市内各校に広め、共有することができた。新たな教材の作成・配布など、新しい取組を行うことができた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	数値上、経年変化では改善の傾向が見られる。現行の取組を継続しつつ内容等を充実させていく。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	全国学力・学習状況調査について、結果を分析し、小中学生向けに課題解決のため作成した教材をさらに改善しながら児童生徒の学習意欲を向上させていく。市内小中全校に配置する教育指導助手について、研修会等を通して技量を高めながら児童生徒の支援を行っていく。研究実践校による公開授業研究会をさらに充実させながら教職員の力量を高め、児童生徒の豊かな学びにつなげていく。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由		教科によっては学習意欲に関する目標値を達成しており、達成していない部分も国が設定している誤差の範囲になっている。課題解決教材の改善や教育支援助手の研修等、取組は充実してきている。学校からのニーズが高い教育支援助手の増員や課題解決教材の充実などが今後必要である。	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	C	<p>確かな学力の定着・向上に向け、主体的、対話的な深い学びをどう取り入れていくのか、全国学力学習状況調査検討委員会の分析結果や、研究実践校の取組事例の共有を図りながら、各学校の現状に沿った対策、学校間の学力格差を解消するための条件を整備し、目標達成に向け取り組むべきである。</p> <p>また、通常学級において、発達に特性を持つ児童・生徒が増加しており、個別支援の必要性が高まっている中、学力の定着を図るためには、引き続き教育指導助手の増員を図るなど子どもの状況に応じた対策を講じていく必要がある。</p>		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>依然として、全国の平均正答率に及ばない現状なので、早急に改善が必要である。どこが課題なのか、検討委員会の分析を生かしながら取り組むべきである。特に平成28年度より着手した課題解決学習教材は、せっかく作成したのだから、積極的に活用して欲しい。現場の意見により配布時期を決めたことは評価できるが、活用状況についてもしっかり調査し、より充実した取組にしてほしい。</p> <p>また、年々個別支援が必要な子どもたちが増えている中で、教育指導助手派遣事業は引き続き拡充すべきであると考えている。大学との連携による教科学習支援員事業も若い大学生が入ることで良い刺激となり、現場の先生方のニーズも高いようなので、引き続き大学側と緊密に連携を図り、子ども達の学習意欲の向上に繋げてほしい。</p>		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育指導課 教育研究所
教育プランの位置付け	1-2-2

No.2	施策名	いじめ等の対策の推進
施策の概要	目的	いじめ、暴力行為などの問題行動等に対し、学校、教育委員会、関係機関等が連携して、未然防止、緊急対応、事後指導の各段階において、適切な対策を推進し、安全、安心な学校環境をつくる。
	達成すべき目標	認知したいじめの改善率100%

**28年度事業内容及び工夫・改善事項**

各小中学校の代表児童・生徒による「いじめを考える児童生徒委員会」を組織し、子どもたちの主体性を生かしたいじめ根絶の取組を進め、意見交換を行うことでいじめの未然防止を図るとともに、SOSカードを作成し全児童生徒に配布した。

小中学校の教員を対象に、ソーシャルスキル研修会を開催するとともに、いじめ巡回相談事業により臨床心理士、学校心理士を講師として派遣し、学校が抱える具体的な支援や適切な相談対応の指導を行った。

本市のいじめ防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するための「秦野市いじめ問題対策調査委員会」を3回開催した。また、いじめの未然防止、早期発見に向けて、いじめ問題対策連絡協議会を新たに設置し、年2回会議を開催した。

施策の経費	予算事業名	09・01・02・1200 いじめ・不登校対策事業費 09・01・03・0201 教育支援教室運営経費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	16,554	17,906	17,866			
	決算額	16,273	17,233				
	執行率(%)	98.3	96.2				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	認知したいじめの改善率	100 (109/109)	100 (集計中)	100			
	いじめを考える児童生徒委員会の実施回数	4	4	4			
			4				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	C	いじめや不登校対策事業を継続的に取り組み一定の成果を挙げているが、毎年いじめの定義等の捉え方が変化しており、引き続き工夫改善が必要である。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	学校だけでなく、保護者や地域との協働による見守り活動、あいさつ運動等を行った。今後も引き続き取り組んでいく。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	改善を図りながら継続して施策に取り組み、さらに効果的、効率的な取り組みに努める。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	未然防止がいじめ対策の最大の対応策であり、継続的な取組や支援が必要と考えている。今までの仕組の中で児童・生徒の課題に対応するのではなく、児童生徒の新しい傾向や、保護者が抱える課題に対応できるような支援が必要になってきている。課題解決のため、関係機関・地域がどのように連携・協働しを深めていくべきなのか、また、教育支援教室や自立支援教室等の新しい支援体制の構築をどのように進めていくのかが大きな課題となっている。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A: 計画以上 B: 計画通り C: 少し遅れた D: 大きく遅れた		
	B			
	評価の理由		学校や関係機関との連携を図りながら、認知したいじめの解消率100%を毎年達成するよう努力していく。	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	市独自の取組として「いじめを考える児童生徒委員会」において、SOSカードを全児童生徒に配布する等、子どもが主体となっていじめの撲滅を図っていく施策の推進は評価できる。 しかし、いじめの要因が多様化する中、参加した生徒が各学校でどのようにその活動の実践を広げていくかが課題である。教員のスキルアップはもとより家庭や地域、また他の事業と有機的に連携を図りながら、「いじめはあってはならない非人間的行為」であることを子ども達に粘り強く浸透させるべきである。いじめの発生が最小の段階でケアできるようにするとともに、潜在しているいじめ事案の解消と未然防止を含めて安全安心な学校環境の構築に努めてほしい。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	「いじめ」の定義が教員に浸透し、いじめの認知件数が増加していることは、丁寧な初期対応に繋がるため、今後も法に基づきしっかりと対応してほしい。 併せて、いじめの解消率を上げるためには、やはりチーム支援が重要となるため、新たに発足した「いじめ問題対策連絡協議会」や「いじめ問題対策調査会」と緊密な連携を図るべきである。特に最近、子どもへの細やかな理解も重要となってくるので、現在行っている臨床心理士等の専門家からの支援も拡充していく必要があるのではないかと。本市の独自の取組である「いじめを考える児童生徒委員会」は、子どもたちの主体性を生かした未然防止活動であり、大変評価できる。今後もSOSカードの作成のように、工夫改善を図りながら取り組むことが必要である。		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育指導課 教育研究所
教育プランの位置付け	1-2-3

No.3	施策名	不登校対策の推進
施策の概要	目的	不登校児童生徒数は増加傾向にあり、その原因や背景は様々で複雑化しているため、児童生徒やその保護者に対し、関係機関等が連携して、不登校の未然防止、早期発見、早期対応などそれぞれの場面において迅速かつ適切な不登校対策を推進する。
	達成すべき目標	不登校児童生徒数の出現率の減少 平成27年度比マイナス5%

**28年度事業内容及び工夫・改善事項**

保護者をはじめ、学校、関係機関との連携をさらに深めるとともに、臨床心理士等を配置し、専門的な見地から、子どもの特性や実態を把握したうえで、より適切な不登校対策を進めた。また、「教育支援教室いずみ」では、多くの体験活動を通じて子どもたちに自信をもたせ、寄り添いながら支援を行うことができた。

施策の経費	予算事業名	09・01・03・0200 教育支援教室事業費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	9,837	10,782	10,055			
	決算額	9,543	10,228				
	執行率(%)	97.0%	94.9%	0.0%			

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	不登校児童生徒数の出現率	1.61 (147件)	1.53 (集計中)	1.53			
	問題行動短期調査による30日常欠席の児童・生徒の出現率	1.69	1.61	1.98			
			2.08				
	問題行動短期調査による30日常欠席の児童・生徒のチーム支援率	56.8	59.6	61			
58.1							

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	C	不登校児童・生徒出現率の安定した減少が見込まれていない。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	学校や関連機関と綿密に連携し、専門的な見地から子どもの特性や実態を把握した。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	発達に特性のある不登校児童生徒の増加に伴い、教育支援教室に繋がらないような児童生徒も増加しており、訪問型支援体制の充実が急務である。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	不登校や不登校傾向となる原因が複雑化し、その把握と適切な支援が難しくなってきたことから、保護者はもちろんのこと、成長の中で関わってきた園校の教職員や関係機関との、より緊密な連携が必要となっている。 教育研究所に訪問型支援体制の担当職員を1名配属し、今年度試行する教育支援センター運営を平成30年度4月から本格稼働に位置付けていきたい。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	C			
	評価の理由			
	問題行動短期調査による30日常欠席の児童・生徒の出現率について、平成28年度の目標値1.61に対して実績値2.08と達成できなかったが、課題の複雑化・長期化の傾向についてその要因を分析し、工夫改善を図る検討を開始した。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	C	子どもが不登校になる要因が複雑化する中で、単に出現率のみに着目せず、根本を分析し、解決へ向けて取り組んでほしい。そのためには、教育委員会だけでなく、幼小中の連携、他の機関との連携など様々な角度からの相談体制の充実を図られたい。 また、発達に特性のある児童への細やかな対応が求められる中で、スクールカウンセラーの派遣日数の増加や、小学校への専任化などにも取り組んでほしい。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	C	児童生徒数が減少する中、不登校の数が増えていることに大きな危機感を感じている。最近では小集団の活動により支援を行う「教育支援教室いずみ」に繋がらない、いわゆる引きこもりに繋がる恐れのある子ども達も増えているようだ。 訪問型の支援や専門家チームの創設など新しい仕組みも検討しているとのことだが、スピード感を持って改善していくべきである。 また、不登校や不登校傾向となる原因が複雑化しているとあるが、その分析をしっかりと行い、新たな対応策に繋げていく必要がある。		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	学校教育課 教育指導課 教育研究所
教育プランの位置付け	1-5-1 3-4-4

No.4	施策名	学校におけるICT化の推進					
施策の概要	目的	ICTの進展やグローバル化に対応できる児童生徒を育成するため、学校におけるICT教育の環境整備を推進するとともに、ICTを活用し、子どもたちがわくわくしながら興味をもって豊かに学び、その理解を深める。さらに、校務におけるデータを一元化することで教職員の校務の効率化を図り、子どもたちへのきめ細やかな指導につなげる。					
	達成すべき目標	普通教室においてもパソコンの使用環境を整備する。 学校におけるICT活用の推進に向けて、ICT支援員による支援の充実を図る。					
28年度事業内容及び工夫・改善事項		平成22年度に小・中学校に導入した校務用パソコン111台を更新するとともに、校長・事務職用の内部事務系パソコンや学校司書用のパソコン65台を整備した。 また、特色ある学校づくり研究校である上小学校に、先行して教員用及び児童用タブレット端末40台を導入するとともに、貸出用のタブレット端末10台を導入した。 更に、平成28年度に運用を開始した校務支援ソフトについて、ICT支援員を講師として操作及び活用に係る教職員研修会を実施した。ソフトの操作・運用については、訪問や電話対応による学校支援を行った。					
施策の経費	予算事業名	09・02・01・0300 小学校ICT環境整備事業費 (学校教育課) 09・03・01・0300 中学校ICT環境整備事業費 (学校教育課) 09・01・03・0500 学校ICT推進事業費 (教育研究所)					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	85,125	87,194	155,696			
	決算額	78,073	82,424				
	執行率(%)	91.7%	94.5%				
施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	普通教室等で使用できるパソコンの整備(タブレット端末整備台数)	23	72	564	564	942	942
			73				
	ICT支援員による学校支援(学校訪問回数)	30	90	45			
			109				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	タブレット端末の導入については、目標を達成した。また、校務の効率化について一定の成果が得られた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	上小学校に先行してタブレット端末を導入し、学校全体で組織的な実践研究に取り組んだ。また、ICT支援員による適切な学校支援を行った。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	周辺機器も含め、今後もICT化の推進とともに、ICT活用に向けた学校支援のニーズは今後も高いと考えられる。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	<p>平成29年度には小学校パソコン教室にタブレット端末及び普通教室に大型テレビモニターを導入する予定である。中学校については、技術科の授業でキーボード操作の必要性もあることから、タブレット端末や周辺機器の導入について、学校現場と協議しながら検討していく。</p> <p>また、校務をより効率化する校務支援ソフトの運用方法を検討するとともに、子どもの学びに資するタブレット端末の活用法を引続き研究する必要がある。</p>			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
	普通教室で使用できるタブレット端末の配置を計画どおり整備した。また、校務支援ソフトの運用がスタートしたことにより、校務における帳票類等の作成負担が軽減し、効率化が図られた。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>タブレット端末の導入は生徒からの要望も高く、ICT化を進める施策は評価すべきと考える。今後は、中学校でのさらなる活用が望まれることから、授業で効果的に活用するために職員の研修も必要である。</p> <p>また、校務支援ソフトの導入や運用についても各学校現場で比較的スムーズに行えた。今後も継続して充実した支援を行ってほしい。</p>		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>目標も達成され、県内の市町村と比べると、整備は進んでいるようなので評価したい。だが、昨年度視察したつくば市では、整備と共に活用も急ピッチで進んでいた。単に整備するだけでなく、それが十分に活用され、授業改善や学力向上に繋がるよう努めてほしい。</p> <p>一方、教職員の多忙化も課題となっているが、校務支援ソフトの導入が負担軽減に繋がっているようなので評価したい。この負担軽減が、いじめの未然防止等、子どもと向き合う時間の確保に繋がると思うので、学校ICT推進事業による支援員の派遣を効果的に行い、校務におけるICT化の推進にも、引き続き積極的に取り組んでほしい。</p>		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育総務課
教育プランの位置付け	1-6-2

No.5	施策名	公立幼稚園の配置の見直し
施策の概要	目的	秦野市公立幼稚園運営・配置実施計画に基づき、小学校への施設の一体化やこども園化による公立幼稚園の配置を見直し、望ましい幼児教育のための環境整備を行う。
	達成すべき目標	小学校との施設一体化（1園・校）、こども園化（公私連携）（1園）

**28年度事業内容及び工夫・改善事項**

園児数が減少する中、幼児教育上必要な集団性を確保するため、上幼稚園については、隣接する上小学校の余裕教室を活用し、幼稚園を小学校の校舎内に移転し、施設を一体化した。施設一体化に伴い、園児に対し、小学校の給食を提供するとともに、幼稚園型一時預かり事業と児童ホームを同じ部屋で実施することとした。

また、みなみがおか幼稚園については、公私連携のこども園化へ向け、平成29年2月に募集要項を策定し、同年2月から4月にかけて、運営法人を募集した。

施策の経費	予算事業名	09・02・01・0102 小学校施設維持補修費（上小学校） 09・02・04・0100 小学校施設改修事業費（上小学校） 09・01・02・0101 事務局運営費（みなみがおか幼稚園）					
	【単位：千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	—	5,400	133	—	—	—
	決算額	—	14,033		—	—	—
	執行率(%)		259.9				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	小学校との施設の一体化	計画の策定	1園	—	—	—	—
			1園	—	—	—	—
	こども園化（公私連携）1園	計画の策定	運営法人の募集	運営法人の決定	移行準備	開園	—
			運営法人の募集				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	施設の一体化及び運営法人の募集を実施した。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	地域・保護者及び学校関係者に対し説明会を実施し、丁寧な対応に努めた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	B	運営法人の募集について、応募状況に応じた、募集要件の検討が必要となる。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	<p>みなみがおか幼稚園については、市との協力・連携により園運営を行う運営法人を選定するとともに、市・運営法人・保護者等代表で構成する三者協議会を設置し、円滑な移行を図っていく。</p> <p>また、その他の公立幼稚園（上幼及びみなみがおか幼除く）については、秦野市公立幼稚園運営・配置実施計画で示した基準に基づき、園児数及び学級数、小学校との位置関係、設立の経緯、保育ニーズ、近隣幼児施設の状況等を十分に考慮したうえで、検討を重ね、必要な対応をしていく。</p>			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	B	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	評価の理由			
	平成28年度の目標である「小学校との施設の一体化1園」と「こども園化に係る運営法人の募集」について当初の計画どおり実施することができた。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>平成28年度の目標である「小学校との施設の一体化1園」と「こども園化に係る運営法人の募集」が達成できたことは評価できる。</p> <p>事業の推進に当たっては、結果を優先させるのではなく、幼児のより良い育ちを促進する教育環境の整備に重点を置き、市・運営法人・保護者の相互理解と協働を基調として取り組んでもらいたい。秦野市が未実施の1号認定の3歳児保育について、保護者ニーズも高いことから、早期に運営法人の決定がされ計画が進むことを期待する。</p>		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	A	<p>小学校への施設の一体化やこども園化による公立幼稚園の配置の見直しは、望ましい幼児教育の環境を維持するには、必要なことである。</p> <p>28年度は、「小学校との施設の一体化1園」と「こども園化に係る運営法人の募集」と当初の計画どおりに進められたことは評価できることである。</p> <p>今後もみなみがおか幼稚園のこども園化については、平成31年4月開園に向けて着実に手続きを進められたい。</p> <p>さらに、その他の幼稚園についても、秦野市公立幼稚園運営・配置実施計画で示した基準に基づき、望ましい幼児教育の環境整備を進められたい。</p>		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育指導課
教育プランの位置付け	2-1-1

No.6	施策名	学校支援づくりの推進
施策の概要	目的	学校運営全般にわたり、地域の方の経験を生かした教育活動等への支援など、地域や保護者と一体となった学校づくりを進め、子どもの豊かな成長につなげる。
	達成すべき目標	コミュニティ・スクール等に関わる学校支援者の拡大

**28年度事業内容及び工夫・改善事項**

地域ともにある学校づくりを推進するために、平成27年度コミュニティ・スクール研究推進校であった西中学校を、コミュニティ・スクール学校運営協議会設置校として指定し、学校支援体制づくりに取り組んだ。

また、新たに堀川小学校をコミュニティ・スクール研究推進校に指定し、先進事例の視察やコミュニティ・スクールに関する研修を行った。

コミュニティ・スクールは、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことで効果が発揮されるため、地域と学校の行事の同一開催や、防災訓練等に地域や学校が共に参加する等、地域の方と子どもたちの交流しやすい環境を整えた。更に、学校運営協議委員から地域に情報提供や情報発信など行うなど、「地域ともにある学校づくり」を推進した。

施策の経費	予算事業名	09・01・02・1600 コミュニティ・スクール研究実践事業					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	2,232	2,830	3,907	-	-	-
	決算額	263	1,428	-	-	-	-
	執行率(%)	11.7	50.4	-	-	-	-

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	コミュニティ・スクール学校運営協議会設置校の指定	0	1	1			
			1				
	コミュニティ・スクール研究実践校の指定	1	1	2			
			1				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	平成27年度に立ち上げた事業であるが、学校と教育委員会が一つひとつの事案を丁寧に進めていくことができた。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	C	B	先進校や他市町村の取組内容を参考にしながら、秦野らしいCSを目指し、展開しようとしている途中である。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	B	指定校の前例に捉われず、各校の実態に応じたCSの姿を地域・学校・教育委員会が一体となって考えていく必要がある。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	<p>コミュニティ・スクール研究実践校では、地域ともにある学校づくりであるコミュニティ・スクールについての意識が高まり、学校運営協議会設置校の指定に向けた取組を進めることができた。</p> <p>コミュニティ・スクール指定校及び研究実践校での取組を発信することを通して、コミュニティ・スクールの仕組みを広げていく。</p>			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由		<p>教育プランの計画通り進めていくべきだが、研究実践校に指定をして、翌年学校運営協議会設置校に指定していくためには、管理職による2年間以上に渡るビジョンと教育委員会との連携が必要となるため、個々の学校の実態を踏まえながら方向性を打ち出していくことが必要である。</p>	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>秦野市は従来から幼小中一貫教育を進め、成果を挙げてきたといえる。今後コミュニティ・スクールを推進するためには、学校、家庭、地域、行政が、その理念や目標を共有し、それぞれの教育力が一つとなって子どもたち一人ひとりの育ちにつながっていくよう、丁寧な議論を行うことで、更なる充実を期待したい。</p> <p>一方、教育委員会においては、幼小中一貫教育とコミュニティ・スクールの棲み分け、または一体化を図る必要がある。</p>		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>平成28年度までに全国の3,600以上の学校にコミュニティ・スクール学校運営協議会が設置された。また、平成29年4月より地教法の改正により、平成16年当初のコミュニティ・スクール学校運営協議会の設置が「できる規定」から「努力規定」になった。これらを踏まえ、本市においてもコミュニティ・スクール学校運営協議会の設置が順次拡大するよう努めてほしい。今後、順次拡大するためには、コミュニティ・スクール学校運営協議会設立に向けた研究実践校を複数で想定していくことが必要である。</p> <p>学校に主体的に実践校になってもらうためにはどのように取り組むべきか、方策を打ち出してほしい。また、コミュニティ・スクール学校運営協議会設置後の課題である、委員の重複の解消についても検討すべきである。</p>		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育指導課 教育研究所
教育 プランの 位置付け	1-2-2

No.7	施策名	支援教育の推進
施策の概要	目的	個別に支援を必要とする児童生徒は年々増加する傾向にあり、一人ひとりの教育的ニーズに対応できる基礎的な環境整備が必要とされているため、児童生徒の様々な教育課題を的確に把握し、個に応じた適切な支援をより充実させる。
	達成すべき目標	必要に応じた特別支援学級介助員の確保

28年度事業内容及び工夫・改善事項	<p>小中学校特別支援学級在籍児童生徒の学習活動の補助・安全確保及び生活介助等を適切に行うため、平成28年度は、小学校12校、中学校2校に45名の介助員を配置するとともに、児童生徒へのより良い支援方法を学ぶため年に2回介助員の研修を実施した。</p> <p>学習障害児、注意欠陥多動性障害児、高機能自閉症児、集団へ不適應の児童生徒等への個別の支援を行うため、小学校3校、中学校2校に12名の発達障害児等支援協力者及びメンタルフレンドを派遣した。</p>
-------------------	--

施策の経費	予算事業名	09・02・03・0400 特別支援学級介助員経費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	47,097	47,689	52,885			
	決算額	45,704	46,669				
	執行率(%)	97.0	97.9				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	特別支援学級介助員の派遣	43	45	49			
	メンタルフレンド等の派遣数(延べ数)	375	100	100			
			75				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	B	2名の介助員が増員され、新設学級や障害の重い児童生徒の在籍する学校において、個に応じた適切な支援を図ることができた。
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	個に応じた合理的配慮が求められる中、介助員の果たす役割は大きいため、介助員の確保に努めた。
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	配置されている介助員については、役割を十分に果たしているが、重度化複雑化するニーズに対応する支援が求められる。
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	地域の特別支援学級に在籍する児童生徒が障害の重度化・多様化し、保護者の要望が高まることに伴い、支援学級に求められる教育的ニーズが増加する中、介助員の拡充は不可欠な状況となっているため、引き続き必要に応じた特別支援学級介助員の確保に努めたい。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由		計画通り、介助員の拡充が行われてきているが、特別支援学級に在籍する児童数が飛躍的に増加していることや、多様化、高度化する保護者の要望に対応するためには特別支援学級介助員のさらなる拡充が求められる。	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	C	対象児童生徒が増加し、障害の状況も多様化、重複化する中で介助員の増員や研修の実施など、質的・量的な向上に努められたことは評価できる。しかし、学校現場では人員が不足しており、多様化する保護者からの要望に十分対応できているとは言い難い。 今後は、インクルーシブ教育の理念や合理的配慮に対する職員の意識や理解を更に深めるとともに、介助員・メンタルフレンド等を拡充するなど、物的・人的・質的な支援体制を充実させていくことが重要である。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	平成28年の国の報告（発達障害を含む特別支援教育の動向）によると、全児童生徒数は減少傾向にあるものの、小・中学校の特別支援学級在籍児童・生徒は平成17年度比で2.1倍にあたる全体の2%、通常の学級における通級指導児童・生徒は2.3倍の0.9%（なお発達障害の可能性のある児童生徒は6.5%）と増加傾向にある。 これらのことを踏まえ、肢体不自由学級及び知的障害学級、自閉症・情緒障害学級に介助員を45人配置し、在籍児童・生徒の円滑な学習活動を支援するとともに、自立に向けての成長発達を促進し、一定の成果が見られた。支援を必要とする児童生徒の増加に伴う正規職員の配置は難しいため、今後の課題として計画的に介助員を拡大する必要がある。 また、末広小学校敷地内で展開している秦野養護学校と連携強化を図り、情報共有や教職員資質向上に関する研修会等ソフト面での充実を図ってほしい。		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育総務課
教育プランの位置付け	3-1-1

No.8	施策名	西中学校体育館等複合施設の整備
施策の概要	目的	老朽化した学校体育館等の建て替えを基本に、学校を中心とした地域コミュニティの拠点や地域防災等の機能を有する多機能型体育館を整備し、学校教育環境の向上を図る。
	達成すべき目標	西中学校体育館等（多機能型体育館）の完成

28年度事業内容及び工夫・改善事項	先行整備する消防署西分署の実施設計に合わせて、多機能型体育館の施設配置や既存体育館等の跡地利用を含めた全体的な整備構想の策定を進めた。
-------------------	---

施策の経費	予算事業名	09・01・02・0104 西中学校体育館等複合施設整備事業費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	4,337	9,000	17,110	81,600	715,000	715,000
	決算額	0	4,182				
	執行率(%)	0.0%	46.5%				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	西中学校体育館等（多機能型体育館）の完成	—	整備構想の策定	基本設計の実施	実施設計の実施	建設工事着手	完成
			整備構想の策定委託				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	C	整備構想の策定委託を踏まえ、関係各課で調整をする中で、策定が平成29年5月になった。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	関係団体等の意見を踏まえ、整備構想の策定を進めた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	おおむね計画どおりに進んでいる。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	当初計画からは整備が大幅に遅れており、整備構想を踏まえて基本設計を進めていくことになるが、国庫補助制度の動向などを見据えてできる限り早期の完成を目指して取り組む必要がある。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
	当初計画の見直し後については、おおむね計画どおりに整備構想の策定を進めており、それを踏まえた基本設計について計画どおり平成29年度に着手できるよう、進捗している。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	C	西中学校体育館の建替えについては、かなり昔から計画されていたことであり、当初の計画に対しては大幅に遅れている。学校現場並びに教育活動に支障のないように円滑、着実な事業推進により、将来に範となるべき多機能型体育館として、また、市民活動と教育活動の効果的な運用ができるような地域のコミュニティの施設として位置付けてほしい。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	老朽化した学校体育館の建替えは、早急に進めなければいけない課題である。28年度に整備構想の策定を進めたことは、建替えに向け確実に事業が前進しているといえる。 今後は、この整備構想に基づき基本設計、実施設計、建設工事と進められるが、目標年度完成に向けて着実に進められたい。 また、学校を中心とした地域コミュニティ機能の拠点となるよう、学校、地域、市の3者で連携を図りながら整備を進められたい。		

平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート						主管課名	教育総務課
No.9	施策名	学校施設長寿命化の推進				教育 プランの 位置付け	3-2-1
施策の概要	目的	計画的な学校施設の改修等を行うことによって、学校施設の長寿命化を図り、快適で安全・安心な学習環境を確保する。					
	達成すべき目標	計画的な学校施設改修事業を実施する。					
28年度事業内容及び工夫・改善事項		<p>小学校については、特別支援教室等改修工事（北小学校、末広小学校）、外壁改修工事（南小学校）、受変電設備更新工事（堀川小学校）内部改修工事（上小学校）外構工事（上小学校）校庭砂敷き工事（上小学校）の7件について改修工事を行った。</p> <p>また、中学校については、放送設備更新工事（大根中学校）、放送・インターホン設備更新工事（南が丘中学校）、受変電設備更新工事（渋沢中学校）の3件について改修工事を行った。</p> <p>さらに、幼稚園については、放送設備更新工事（北幼稚園）、屋上防水等改修工事（西幼稚園）の2件について改修工事を行った。</p> <p>今後も引き続き国庫補助事業を活用し、財源の確保に努めるなどして計画的な学校施設改修事業を実施に努めたい。</p>					
施策の経費	予算事業名	09・02・04・0100 小学校施設改修事業費 09・03・04・0100 中学校施設改修事業費 09・04・03・0100 幼稚園施設改修事業費					
	【単位：千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	235,547	132,490	229,740			
	決算額※	160,368	110,022				
	執行率(%)	68.1%	83.0%				
施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	工事件数	19件	8件	15件			
			12件				

※H28予算額132,490千円のうち540千円、決算額110,022千円のうち9,853千円及び工事件数12件のうち3件は、施策No.5の公立幼稚園の配置見直しにかかる経費。(再掲)

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	国の補正予算の国庫補助事業を活用し、次年度事業を前倒して実施することができた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	学校施設の長寿命化に向け国の補正予算の国庫補助事業を活用し、次年度事業を前倒して実施することができた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	引き続き国庫補助事業を活用し、財源の確保に努める。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	国庫補助事業等を活用して財源の確保に努めながら、計画的に学校施設の改修を進めていく。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由		国の補正予算の国庫補助事業を活用し、次年度事業を前倒して実施することができた。	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	C	<p>厳しい財政状況の中で国庫補助事業を活用し、次年度の事業を前倒して、快適で安全・安心な施設整備に努めたことは評価できる。</p> <p>しかし、築後50年を経過しようとしている中、施設の老朽化に伴う経年劣化は今後の大きな課題であり、施設の長寿命化を目指した改修は必要不可欠である。費用負担が増額するが、施設の現状を把握したうえで中・長期的な計画のもと、引き続き安全・安心を優先させた着実な取組を図ってほしい。</p>		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>本市の学校施設の多くが建設から30年以上が経過し、経年劣化、老朽化が進む中で、計画的に学校施設の改修等に取り組み、学校施設の長寿命化を図り、快適で安全・安心な学習環境を確保していくことは重要な課題である。</p> <p>28年度については、国の補正予算の国庫補助を活用した特別支援級改修工事や、次年度事業の前倒しなど、取組は評価できる。</p> <p>今後も国庫補助を活用するなど、財源の確保に努めながら、児童・生徒及び園児が安全に安心して教育が受けられるよう学習環境の整備を計画的に実施されたい。</p>		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	教育総務課
教育プランの位置付け	3-2-3

No.10	施策名	学校施設等の一体的整備の研究
施策の概要	目的	今後の少子化の進展による学校規模の縮小や施設の老朽化を見据え、ハード・ソフトの両面から研究を行い、多様な学習活動に対応した機能的な学校施設等一体的整備の可能性を探る。
	達成すべき目標	教育施設の一体的整備に向けた方向付けを行う。

28年度事業内容及び工夫・改善事項	学校施設の一体的整備研究に当たり、国の動向及び他市事例等の情報を収集した。
-------------------	---------------------------------------

施策の経費	予算事業名	09・01・02・0105 学校施設等一体化研究事業費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	—	224	140			
	決算額	—	0				
	執行率(%)	—	0.0%				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
学校施設等の一体的整備について計画策定		—	情報収集 論点整理	素案の作成	素案の作成	素案の作成	計画策定
			情報収集				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	D	D	有識者からの助言を踏まえた論点整理ができなかった。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	C	C	課題整理や資料収集に時間を要してしまった。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	C	新たな学校種別である義務教育学校など、制度を踏まえた計画を策定できるよう研究・検討を進めていく。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	<p>今後は有識者から、新たな学校種別である義務教育学校など制度を踏まえた助言をいただきながら、ハード・ソフトの両面から論点を整理し、教育施設の一体的整備の方向性を示せるよう計画の策定を進めていく。</p>			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	C			
	評価の理由		<p>事前の課題整理や資料収集に時間がかかり、有識者から論点整理に対する助言を求めることができなかった。</p>	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	C	<p>施設の老朽化、少子化の進行による学校の小規模化、幼・小・中の一貫した育ちを期待する時代のニーズに対し、幼・小・中が隣接する本市の恵まれた教育環境を生かした教育施設の一体化整備計画の推進には共感できるが、単に小学校と中学校を一体化することで経費の節約や管理職の減員を図るという視点では安易すぎる。</p> <p>教育課程における小中の連携及びその一貫性、教育活動に必要なスペースや施設の整備等課題は多く、それぞれの立場の違いから多様な考え方や問題点が顕在化していくことも否めない。</p> <p>国の動向や先進市町の取組等、幅広く情報を収集し、市としての方向性を探るとともに、様々な機会を通じて関係者や市民に紹介し、共通した認識のうえに立って研究が進められるような土壌を作ることが最優先課題であると考えている。</p>		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	C	<p>今後の少子化の進行による学校規模の縮小や、施設の老朽化への対応は、取り組むべき問題であり、この研究は、大変重要な課題である。</p> <p>28年度は、国の動向や他市事例等の情報収集を行っているが、今後は教育施設の一体的整備に向けた方向付けが行えるよう、長期的な展望に立って、ハード・ソフトの両面から論点の整理を行い、有識者からの助言も踏まえつつ、計画を策定できるようスケジュール管理を行い、進められたい。</p>		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	学校教育課
教育プランの位置付け	3-4-3

No.11	施策名	学校図書館充実のための学校司書の拡充					
施策の概要	目的	小中学校に学校司書を配置し、子どもの読書活動を推進することにより、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにすることで人生をより深く生きる力を養う。					
	達成すべき目標	各校に学校司書を週3日以上配置できる体制を作る。					
28年度事業内容及び工夫・改善事項		在籍する11人の学校司書が、1人あたり2校を担当し、各校あたり週2日勤務しながら図書担当教諭の職務を補佐し、図書館蔵書や資料の管理、学校図書館内の環境づくりを推進し、児童・生徒からの図書に関する相談を受けるなど、学校図書館運営の充実に努めた。					
施策の経費	予算事業名	09・02・01・0200 小学校教育費(報酬、旅費) 09・03・01・0200 中学校教育費(報酬、旅費)					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	7,477	6,708	6,742			
	決算額	7,338	6,573				
	執行率(%)	98.1%	98.0%				
施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	各校への学校司書の週あたりの配置日数	2日	2日	2日	2日	3日	3日
			2日				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	B	学校司書11人が1人当たり2校を担当し、1校当たり2日、全22校に配置することができた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	魅力ある図書館づくりなど、図書館運営の充実に努めた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	C	学校図書館をより充実させるために、勤務日数の増が求められる。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	児童・生徒にとって魅力ある学校図書館づくりを目指して、学校司書を週3日以上各校に配置するためには、更なる人員と予算の確保が必要となる。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
	各学校図書館での様々な企画等を通して、子ども達が本に親しみ、読書活動を推進するためには、学校司書の役割は重要となっている。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	C	インターネット等の普及により、書籍の電子化が進む中、書籍に直接触れる読書は、豊かな情操を育むうえで子どもの成長期には欠かすことのできない活動である。また、子ども達の豊かな情操を養う必要性の高まりや、子ども達が主体的に課題解決する学習が求められている教育の現状から、学校図書館及び学校司書が担う役割は、今後更に大きくなると考えられるため、単に学校司書の配置日数を増やすことだけではなく、学校司書の役割・可能性について検討を重ね、目標を早期実現できるよう努力してほしい。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	児童・生徒の人間形成にとって読書活動は重要な役割を担っているが、その一方で教職員の多忙化が問題となっている。多忙化解消のためにも、教育行政側で少しでも役立つ方法を構築することは重要である。引き続き、学校司書の拡充に努めてほしい。		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	生涯学習 文化振興課
教育 プランの 位置付け	4-1-1

No.12	施策名	公民館事業の充実
施策の概要	目的	生涯学習活動やコミュニティ活動の拠点である公民館事業の充実を図ることにより、市民一人ひとりが人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたり学習し、その成果を生かすことができる社会の実現を図る。
	達成すべき目標	公民館自主事業参加者数の増加

**28年度事業内容及び工夫・改善事項**

公民館11館において、ボランティア講師を中心に自主事業を行うとともに、各地域の住民の協力のもと、伝承文化の継承に資する事業などを開催した。  
 また、パソコン教室やパソコンなんでも相談などを開催し、地域住民のIT教育などを推進するとともに、自然観察会や地域の史跡巡りを通じて本市の持つ魅力に触れる機会を作ることができた。また、夏休み期間には、子どもや親子で参加できる事業を行い子育て支援に努めた。  
 事業への参加者増への取組として、アンケート調査などを実施してニーズを把握し、事業の見直しや新規事業の立ち上げなどを行った。また事業の実施に当たっては、「広報はだの」への掲載や館報の組回覧のほか、学校等を通じた、チラシの配布など積極的な周知を行った。

施策の経費	予算事業名	09・05・03・0101 公民館活動費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	3,640	4,597	3,365			
	決算額	3,538	4,598				
	執行率(%)	97.2	100.0				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	公民館自主事業の参加者数	55,489	55,500	55,750	56,000	56,250	56,500
			53,447				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	C	C	目標に対し達成率は96.3%となってしまった。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	アンケート等から参加者の満足度は高いと考える。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	参加者へのアンケート調査等により、毎年事業の見直しを行うよう努めている。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	<p>公民館自主事業の開催については、各公民館運営協議会の意見を踏まえながら、利用団体からの企画提案された事業や各公民館の連携による事業、地域の学校や多様な団体と連携した事業の推進に努める。</p> <p>今後、様々な団体や参加者からの意見を参考に、自主事業について工夫・改善をしながら参加者の増加に努める。</p>			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由	<p>市民提案型事業及び公民館連携事業、地域協働事業について、当初計画を3.7ポイント下回ったが、おおむね実施することができた。また、各事業を通じて、公民館自主事業への協力が得られるボランティア講師を発掘、育成することができた。各事業の工夫・充実を図ることにより、目標を若干下回ったが、事業には多くの参加があった。</p>		
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>地域の特色を生かした事業を計画し、生涯学習の拠点として、また、地域住民の拠点としての成果は充分達成している。今後とも事業参加人数の数値に一喜一憂せず、事業活動の継続を図っていただきたい。</p> <p>また、公民館の数が減るなど、変革の中で、公民館のあり方や、自主事業の充実などの課題について、今後の取組に期待したい。</p>		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>施策の目標の指標として示す目標値については、参加人数を目標としており、目標には達していないものの、達成率が96%になっていることから、B評価とした。施策の指標には、参加人数だけではなく、公民館の努力が伝わるような指標を設けるよう検討していただきたい。</p> <p>公民館事業は、受講するだけでなく、受講した成果を地域に還元することが理想である。受講の成果を、公民館の講師として生かす取組を行っているとのことなので、今後地域の諸団体やボランティア等との協働により、事業を充実させ、効果を高めることができるよう努められたい。</p>		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名 生涯学習文化振興課  
図書館

No.13	施策名	魅力ある地域学習の推進	教育 プランの 位置付け	4-2-1
-------	-----	-------------	--------------------	-------

施策の概要	目的	秦野の自然・歴史・文化・産業などの地域資源をはじめ、現代課題などの地域学習の機会を提供することにより、市民の郷土意識の高揚や地域活動の活性化を図る。
	達成すべき目標	ふるさと講座や市民大学など各種事業の継続実施

**28年度事業内容及び工夫・改善事項**

ふるさと講座については、秦野の歴史や文化、自然、地域資源等を学ぶことで、ふるさとに対する愛着を持ち、住み良い地域社会や地域力の向上を図ることを目的とし、「地域人材」にスポットを当てて、本市に関わりのある方を講師に招き、「家庭教育」及び「地域資源」をテーマに実施し、若年層の生涯学習への参加促進に努めた。

また、市民大学では、東海大学との提携事業として、大学ならではの専門性の高い内容の講義を実施し、地域文化の向上を図った。

施策の経費	予算事業名	09・05・01・0201 ふるさと講座開催経費 09・05・04・0700 市民大学開催経費 09・05・01・0202 たけのこ学級開催経費 09・05・01・0500 生涯学習推進費 09・05・30・0300 上放課後子ども教室実施経費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	7,303	3,079	2,931			
	決算額	5,571	2,232				
	執行率(%)	76.3	72.5				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	ふるさと講座の開催回数	7回	7回	7回	7回	7回	7回
			7回				
	市民大学の開催回数	8回	10回	10回	10回	10回	10回
			10回				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	A	B	ふるさと講座は、各種講座等を計画的に開催するとともに、市民大学については、講義内容を見直し、講義を1種類増やすことができた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	ふるさと講座では、本市に関わりのある講師を招き、若年層の参加促進に努めるとともに、市民大学では市民ニーズに合わせて講義の充実に努めた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	目的達成のため、多様化する市民ニーズに即した企画や参加し易い環境づくりに努めていく。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	<p>ふるさと講座については、平成28年度中に実施したWebアンケートの結果を踏まえ、より幅広い世代で多くの方の市民が興味を持つ、現代的・社会的課題に対応し、社会情勢等世間で話題となっているような内容の講座を検討していく。</p> <p>また、市民大学については、多様化する市民ニーズを踏まえ、生涯を通して学習する機会の提供を目的に、東海大学の協力を得るなど専門性を深めた講義内容の充実に努めていく。</p>			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
<p>秦野の自然・歴史・文化・産業などの地域資源をはじめ現代課題などの地域学習の機会を提供することにより、市民の郷土意識の高揚や地域活動の活性化を図ることを目標に、各種事業を計画的に行うとともに、Webアンケートや出席者へのアンケートを行い市民ニーズの把握に努めている。</p>				
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	A	<p>ふるさと講座・市民大学とも内容が充実し、受講者の満足度も高く、目標は十分達成されていると考える。また、成人から子どもまでを対象にした幅広い視点で事業が行われているため、今後とも事業企画の推進、参加しやすい環境づくりに努め、生涯を通じ身近で学習のできる機会を提供してもらいたい。</p>		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	<p>施策の達成すべき目標が、事業の継続実施と定められていることから事業の実施回数が目標値となっており、それぞれの事業が目標回数実施されている。指標の目標値について、事業を行う中で、アンケート調査等を行って様々なニーズや要望を受け事業を実施していることが分かる。所管課の努力が伝わるような指標を定めるよう検討していただきたい。</p> <p>ふるさとの歴史や自然、文化などを学習することは、郷土愛の向上に繋がり、地域づくりを担う人材育成にも大きな役割を果たすとのこととなるので、引き続き、市民ニーズや市民生活に密接に関わるテーマを取り上げるなど、内容の充実に努められたい。</p>		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育プランの位置付け	4-4-1

No.14	施策名	図書館サービスの充実
施策の概要	目的	市民に身近な地域での読書活動の充実を図るため、本の貸出返却の利便性を向上するとともに、サービス体制の拡充などに努める。また、市民の「読みたい・知りたい・学びたい」に応える図書館を目指し、図書館蔵書等の計画的な整備を進める。
	達成すべき目標	図書館資料受取場所を拡充する。 サービス体制を向上させる。

28年度事業内容及び工夫・改善事項	市民の読書や学習活動を支援するため、「秦野市立図書館資料収集基準」に基づき、必要とされる資料が身近な場所で提供できるよう努めた。また、窓口業務等の委託拡大を進め、土・日曜日（祝日を除く）の午後7時までの延長開館を実施し、図書館サービスの向上を図った。
-------------------	---

施策の経費	予算事業名	09・05・04・0300 図書館資料等購入経費 09・05・04・0400 図書館活動費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	21,591	21,513	21,591			
	決算額	20,787	20,506				
	執行率(%)	1.0	1.0				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	図書館蔵書等受取場所(館)	12	12	12	13	13	13
	配送による図書館蔵書等搬送数(点)	232,842	235,000	237,000	240,000	240,000	240,000
			237,186				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	インターネットからの検索・予約サービスとともに、公民館図書室や駅連絡所等で利用できるように取り組んだ。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	効率的な運営に努め、利用者の利便性の向上を図り、図書館サービスの充実に努めた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	実績を踏まえ、関係部署との連携・協力を図りながら、身近で便利な図書館サービス網の構築について調査・研究を進めていく。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	利用者の多様なニーズに対応するために、地域の特性を活かした蔵書の充実を図る。また、図書館だけでは対応できないサービスや情報について、庁内外の関係機関と連携することにより、幅広い利用者に提供できるように努める。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
	図書館サービスの維持・向上に努め、子どもから高齢者までの多様な利用者が、本に親しめる環境整備を進める。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	目標に掲げているサービス体制の向上に対し、28年度は開館時間の延長が実施され、利用者の利便性が図られた。今後は、委託を含む職員の勤務体制や経費の割合や、図書館へ足を運ばない市民へのサービスなど、次の5か年を見据えた施策の目標の検討についても並行して行ってほしい。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	地域の図書館として、子どもから高齢者までを対象とした幅広い資料を収集するとともに、郷土資料及び専門書等の充実を図ることも重要と考える。限られた予算の中で、県立図書館等とのネットワークや国立国会図書館のデジタル送信サービス等の利用により、市民の多様なニーズに対応するための努力は評価できる。土・日曜日の開館時間の延長など利便性の向上も図っており、今後は、更に様々な図書館サービスを広く市民へ周知していく工夫に努めて欲しい。		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育プランの位置付け	4-5-1

No.15	施策名	子どもの読書活動の支援
施策の概要	目的	子どもたちが、本と親しみ本を楽しむ環境づくりのための整備を図り、読書が好きな子どもたちを育むことを目指す。
	達成すべき目標	子ども読書通帳の配布 年1,000冊

**28年度事業内容及び工夫・改善事項**

「絵本とおはなしの講座」は全5回、「児童文学の楽しみ」は全4回開催した。また、柳田邦男氏講演会「絵本の力～大人の気づき、子どもの成長」をはじめ、ボランティアの協力を得て「おはなし会」を年間75回開催するなど、子どもの読書に係わる各種事業を実施することにより、読書に親しみ環境づくりを進めた。ブックスタート事業は、多くの親子が絵本と触れ合うきっかけとなっており、アンケートではブックスタートを体験された保護者の93%が事業の継続を望んでいた。

併せて、学校で実施する社会見学や職場体験学習を積極的に受け入れるとともに、読んだ本を記録する「子ども読書通帳」を配布するなど、様々な機会を通して読書意欲の向上を図った。

施策の経費	予算事業名	09・05・04・0400 図書館活動費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	1,083	1,099	1,097			
	決算額	1,095	1,105				
	執行率(%)	1.0	1.0				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	子ども読書通帳の配布数(冊)	862	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	ブックスタート事業での健診対象者への絵本配布率(%)	97.8	1,193	98	98	98	98
			98.5				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	A	B	ブックスタート事業では、アンケート結果などから、親子の触れ合いに絵本が活用されている様子が伺え、本と出合う機会となっている。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	講座受講者による自主的な集まりが立ち上がるなど、読書を通じた生涯学習の場を醸成することができた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	学校で実施する社会見学の受け入れ等、委託職員とともに運営する事業があるため、サービスの質が偏らないように工夫していく。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	ブックスタート事業や乳幼児向けおはなし会については、大変好評であり、絵本の貸出利用が増えるなど一定の成果を挙げる事ができた。今後は、絵本を卒業した子どもたちが、読書の豊かな世界へ出会うために、周りの大人たちの手助けが必要であるため、保護者などに対する呼びかけも大切であると捉えている。各種講座・講演会等を通じて、啓発事業に取り組んでいきたい。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
	各種講座・講演会をはじめ、子どもの読書活動を支援する事業は、当初計画どおり実施することができた。乳幼児向けおはなし会などは、募集定員を超えることもあった。今後更にボランティアと連携していくなど、事業の充実に努めたい。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	各事業とも着実に活動を継続させており、その積み重ねを高く評価している。スマホやゲームの普及により子どもの読書活動は減っている中、どのように読書習慣を身に付けさせるのかが課題である。数値目標に対して単に読書通帳を配布するだけではなく、本の好きな子どもだけではなく全ての子どもが、幼児や小学校低学年の頃からの読書習慣を身に付けられるような取組に期待したい。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	子どもの読書活動を支援するために、ボランティアと連携した「ブックスタート事業」や「おはなし会」等の取組は、好評であることから今後も実施してほしい。「子ども読書通帳」については、配布するとともに、その活用方法についての課題の整理と成果の検証が必要であると考ええる。		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	生涯学習 文化振興課
教育 プランの 位置付け	4-6-1

No.16	施策名	公民館施設長寿命化の推進
施策の概要	目的	公民館の計画的な改修等を行うことにより、施設の長寿命化を図り、快適で安全・安心な学習環境を確保する。
	達成すべき目標	耐用年数等に応じた計画的な施設・設備の改修

**28年度事業内容及び工夫・改善事項**

公民館施設・重要設備更新計画を策定し計画的に工事を行った。  
 工事の対象とする時期については、受変電PAS及び高圧ケーブルの更新（15年）、屋上防水工事（20年）、照明設備更新（15年）、空調設備更新（13年）、外壁改修工事（20年）とし、施工年度に偏りが出ないようにしている。  
 しかし、計画に位置づけた工事以外に突発的な対応が必要な案件が生じてくることから、毎年予算要求時に専門職と現地確認を行いながら、必要な予算措置を行っていく。

施策の経費	予算事業名	09・05・03・0200 各公民館営繕工事					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	24,500	25,630	77,660			
	決算額	22,160	21,950				
	執行率(%)	90.4	85.6				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	公民館施設・重要設備更新計画による工事計画件数	5件	4件	4件	12件	5件	4件
			5件				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	A	B	当初予定していた4件の他、更に1件の工事を行うことができた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	工事設計部署の専門職と連携することで、できるだけ利用者に不便をかけることなく、工事を行うことができた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	修繕計画に位置付けた営繕事業の他に、毎年度、専門職と現地確認をし、緊急的に対応が必要な案件に対応できるよう努める。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	耐用年数等に応じた計画的な施設・設備の改修事業については、当初計画どおりの成果を上げることができた。計画に位置づけた工事以外に突発的な対応が必要な案件が生じてくることから、今後も専門職と現地確認を行いながら、必要な予算確保に努める。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由		公民館施設・重要設備更新計画を策定し計画的に工事を行っており、平成28年度工事は、本町公民館空調更新工事、南・上・東公民館の受変電PAS及び高圧ケーブル更新工事、北公民館駐車場整備工事を行った。今後、改修年度に偏りが出ないように、計画的な工事に努める。	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	地域の人が集う場所であり、生涯学習の拠点である公民館を、利用者が気持ち良く使えるように、計画的な施設・設備の改修が計画通り行えたことは評価できる。引き続き、利用者が安全に快適に使用できる環境の整備を望みたい。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	計画的に公民館重要設備等の改修が行われていることは評価できる。計画に掲げた項目のほかに、雨漏りや設備の不具合など、早急な営繕工事の対応が必要なることがあるようだが、工事の必要性について技術職などの専門職とともに現地を確認するなど、工事の必要性や優先順位を検討をしながら、施設の利用環境の向上に努めていただきたい。		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育 プランの 位置付け	4-7-1

No.17	施策名	施設の長寿命化計画等の推進 (図書館)
施策の概要	目的	建設後30年以上が経過しているため、利用者が安全・安心で快適に利用できる施設として維持管理に努める。
	達成すべき目標	施設の長寿命化計画 (平20年から36年) に基づく進捗率 42%

28年度事業内容及び工夫・改善事項	平成28年度は、経年劣化等により不具合が発生していた視聴覚室音響設備等の改修工事を実施した。工事に当たっては、使用可能な設備等は継続して使用することとし、経費等が必要最小限になるよう見直し、経費の削減に努めた。
-------------------	---

施策の経費	予算事業名	02・01・14・0104・15 カルチャーパーク費・図書館管理費・工事請負費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	1,170	2,700				
	決算額	776	2,635				
	執行率(%)	66.3	97.6				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	施設の長寿命化計画に基づく進捗率 (%) (策定時実績)	26	29	29	42	42	42
			28				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	講演会や映画会等の事業を行う視聴覚室の音響設備等を改修することで、利用者に快適な環境を整備することができた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	視聴覚室の設備改修により、利便性の向上が図られた。また、事業がスムーズに進められるようになり、充実したものとなった。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	経年劣化により施設の老朽化が進んでいる。改修工事を行うことで、施設を良好な状態で維持できるため長寿命化計画を推進していく。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	利用者の利便性を考慮し、改修工事はなるべく休館日や夜間など利用者のいない時間に行う必要があると考えている。今後、大規模な改修がある場合、日程の調整等が難しくなることが考えられるため、関係各課と連携し対策を講じていく。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
	図書館施設の改修を適切なタイミングで実施し、安全・安心で利用者の生涯学習の場としてふさわしい読書環境の確保を目指し、施設の整備に努めている。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	建築後30年以上が経過しているとは思われないほど維持管理が行き届き、古い施設ではあるが快適に利用できるよう配慮が感じられる。今後も引き続き、安全・安心面を最優先にするとともに、施設の有料化を進める中で、設備の更新を含めた施設の整備に配慮してほしい。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	築後32年を経過した図書館施設・設備について、より長く安全に、老朽化の進行を防ぎながら利用していくために、計画的な改修に努めていることは評価できる。施設の機能を維持するためには、空調設備や水回り等、経年劣化している状態を把握し、適切に補修することが必要である。利用者へ快適な読書環境を提供するため、計画的かつ継続的に保全を進め、施設の機能性の維持と向上を図り、身近な生涯学習環境の整備に努めてほしい。		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	生涯学習 文化振興課
教育 プランの 位置付け	5-4-1

No.18	施策名	文化財・歴史文化資料等の活用の推進
施策の概要	目的	貴重な文化財や歴史文化資料などを効果的に活用し、市民の歴史文化に対する理解を深め、郷土に親しむ心を育む。
	達成すべき目標	効果的な学習機会の提供の推進

**28年度事業内容及び工夫・改善事項**

普及啓発事業の実施については、ミュージアム青空レクチャー（遺跡発掘現場見学会：4回）、ミュージアムさくら塾（6回）、ミュージアムさくら工房「夏休み親子まが玉作り教室」（4回）、はだの史・発見展（3回）、たばこ資料展、指定文化財特別公開、出前講座（2回）、発掘調査報告書「秦野の遺跡9」の刊行を行った。

桜土手古墳展示館の運営については、春季特別展「秦野の歴史2016」、秋季特別展「遺跡・遺物が語る！かながわ・秦野の歴史2016」を開催した。

企画展示を工夫、充実し、所蔵する資料を活用することで桜土手古墳展示館の入館者増に繋げるため、市民の関心が高い内容を幅広く捉えながら、市史資料の活用を図るとともに、施設、設備を有効活用し、展示企画を行った。

施策の経費	予算事業名	09・05・01・0700 市史資料保管活用費 09・05・02・0200 文化財普及啓発費 09・05・02・0300 文化財保存管理経費 09・05・02・0400 博物館資料・文化財調査整理経費 09・05・02・0500 桜土手古墳公園・展示館管理運営費					
	【単位：千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	32,086	25,433	28,697			
	決算額	28,482	23,565				
	執行率(%)	88.8	92.7				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	文化財特別公開参加者数	1,253	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
			1,250				
	歴史文化講座受講者数 (人/回) (平均)	225/6 (平均37)	250/6 (平均41)	250/6 (平均41)	250/6 (平均41)	250/6 (平均41)	250/6 (平均41)
			289/6 (平均48)				
桜土手古墳展示館入館者数	25,813	24,800	25,000	25,390	26,000	26,600	
		28,941					

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	B	B	歴史文化講座は、取り上げるテーマにより受講者数に変動があるが、目標値を達成することができた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	はだの史・発見展において、今まで取り上げてこなかったテーマや、新たに「山の日」に関連した展示を実施し、好評を得ることができた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	C	C	市民の関心が高いテーマ、タイムリーなテーマを考慮しながら企画して事業実施に取り組む。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	普及啓発事業については、当初計画どおりの成果を上げることができたが、桜土手古墳展示館で開催した「はだの史・発見展」等の企画展示事業においては、幅広い分野の展示を行うことで集客につながったものの、照明や防犯など施設・設備面が整っていないなど反省点もあった。 桜土手古墳展示館は、総合的な歴史資料館へのリニューアルを目指しており、その一環として平成29年度に映像室の展示環境の改善を図る予定である。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
遺跡発掘現場の見学会や歴史文化講座をはじめとした普及啓発事業については、当初計画どおり実施することができた。また桜土手古墳展示館の入館者数については、企画展示事業の工夫、充実により、目標を上回る来館者となった。				
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	新しいテーマにも取り組みながら多くの講座・教室が開催され、多数の参加者もあり目的は達成されている。また、総合的な歴史資料館へのリニューアルを意識した様々な取組は、大変意欲的で工夫がみられる。資料検索・利用の充実を確保するため、市立図書館との連携を検討しながら、広く秦野の歴史や文化の理解を図り、郷土の誇りと認識を深められるような取組に期待する。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	市の歴史や文化財に対する市民の関心の高さが感じられる。 引き続き、新しい調査成果や登録文化財制度の活用などを通じて、より多くの市民が、市の歴史や文化財に触れる機会を充実させてほしい。また、より良いまちづくりに繋がるよう、新たなまちの魅力を再発見できるような学習の機会を提供するとともに、市民の関心が高いテーマの発掘に努めることが重要である。		

# 平成29年度(28年度事業) 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育プランの位置付け	5-4-2

No.19	施策名	特色ある図書館づくりの推進
施策の概要	目的	郷土出身の歌人前田夕暮など、郷土にゆかりのある人物や資料について収集・整理するとともに、その文学遺産を活用し、市民の関心を高めるため、歌人前田夕暮をモチーフとして、短歌の普及発展に努める。
	達成すべき目標	夕暮祭短歌大会、夕暮記念こども短歌大会の参加者及び作品数の増加
28年度事業内容及び工夫・改善事項		夕暮祭短歌大会、夕暮記念こども短歌大会を実施するとともに、郷土ゆかりの歌人、国文学者である谷鼎の生誕120年を記念して、特別展「谷鼎のまなざし」及び記念講演会「谷鼎と丹沢の風土」を開催し、郷土の歌人の周知に努めた。

施策の経費	予算事業名	09・05・04・0500 郷土文学資料収集等経費					
	【単位:千円】	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算額	428	481	432			
	決算額	423	473				
	執行率(%)	98.7%	98.3%				

施策の目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	指標名	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	夕暮祭短歌大会の応募作品数(首)	487	300	300	300	300	300
			301	452			
	夕暮記念こども短歌大会の応募作品数(首)	1,961	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
			2,560				

事業の評価項目		自己評価	部長評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	A	B	子どもたちが短歌に親しむ機会として子ども短歌大会を開催したが、応募作品が増え、短歌に取り組む小・中学生が増えた。
	(凡 例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成			
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。	B	B	郷土の歌人谷鼎の生誕120年を機に、市内の資料所蔵者や研究者の協力により充実した展示を行うことができた。
	(凡 例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった			
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	B	B	市内外の関係者の協力を得て短歌作品の募集や特別展に使用する資料収集に努めた。
	(凡 例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり			
課題及び今後の方向性等	短歌作品の応募に当たっては、裾野を広げるためにインターネットの公募サイトなども活用し、短歌愛好者の団体とも連携して短歌の普及に努めた。			
教育プランの目標達成に向けての進捗状況	評価	(凡 例) A:計画以上 B:計画通り C:少し遅れた D:大きく遅れた		
	B			
	評価の理由			
	秦野の特色を活かした図書館事業として、郷土ゆかりの歌人の業績を積極的に紹介し、短歌を活用したまちづくりに努めている。			
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見		
	B	秦野の特色として短歌に焦点を当て、継続して大会を開催していることは素晴らしい。新しい文化や新たな切り口を開拓しながら、今後も継続してほしい。		
教育委員の評価	評価	評価に関する意見		
	B	郷土ゆかりの歌人、文学者についての理解を広めるため、特別展示や短歌大会等を継続して実施しており、秦野の特色となっている。展示来場者へのアンケートなどを実施することにより、今後の事業展開への参考となるのではないかと考える。これからも、郷土の文化に対する関心や興味を高めるために、引き続き魅力ある事業に取り組んでほしい。		

## 第4章 学識経験者の総合評価

「教育委員会の点検・評価の学校教育関係に対する総合的な評価」

東海大学資格課程教育センター所長  
教授 朝倉 徹

### 1. はじめに

平成27年4月1日に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、すべての地方公共団体に「総合教育会議」を設置することが義務づけられた。これにより、市長と教育委員会が教育政策について協議することになった。

秦野市では、平成28年5月に、市長と5名の教育委員が総合教育会議において、教育に関する基本方針を定めた「秦野市教育大綱」を策定した。同大綱は「幼小中一貫教育を通じた子どもの育成」と『『知の循環型社会』の構築の推進』の2つを、目指すべき教育の姿として掲げた。

そして、その大綱を踏まえ、平成28年度からの5年間を期間とする秦野市教育振興基本計画（「はだのわくわく教育プラン」）及び、「第3次秦野市生涯学習推進計画」が総合教育会議で策定された。

本点検・評価は、以上の計画を実行するために企図された施策や事業が的確に、着実に実施されたかどうかを市民に明らかにすることを目的に行われる。

本稿においては、「秦野市教育大綱」及び「はだのわくわく教育プラン」に記された「5つの方針」のうち、主に学校教育にかかわる方針1から3を採り上げ、それぞれの方針を具現化させる主要施策について、事務局各課等が実施した自己点検・評価および点検・評価会議委員が行った点検・評価を踏まえて総括する。

### 2. 方針1 未来に向かって、たくましく生きる子どもを育みます。

**主要施策1 確かな学力の定着・向上**

**主要施策4 学校におけるICT化の推進**

秦野市教育委員会は「確かな学力の定着・向上」を図るために「学習意欲」に注目している。このことは的確であると言える。平成19年より文部科学省が全国規模で実施している「全国学力・学習状況調査」の結果でも、またOECD（経済協力開発機構）が3年ごとに実施しているPISA調査においても、日本の児童生徒の学習意欲が低いことが課題となっている。

秦野市では児童生徒の学習意欲を向上させる方策を検討するために「全国学力・学習状況調査分析・検討委員会」を組織し、学習意欲と学力の傾向を分析した結果

をホームページに公開している。また、分析結果から導き出された課題を解決するための教材を作成し、各学校に配布した。この一連の取組は、殊に評価できる。今後とも、有識者のアドバイスを取り入れ、より充実させながら継続して欲しい。

その他に、学習意欲を向上させるために、各学校や諸先生方が取り組まれている工夫を、もっと巷間に伝えることも検討して欲しい。子どもたちの学習意欲は、一般的には簡単に向上するものではない。おそらく多くの先生方が悩み、経験豊富な先生や校長、あるいは教育委員会の指導主事らに相談しているだろう。その様子や取組内容が少しでも明らかになることによって、市民は安心し、学校により期待を寄せるに違いない。

他の自治体では「全国学力・学習状況調査」の数字（成績）を上げることを目的として掲げるところもあるが、それには賛成できない。その理由は2つある。まず1つ目は、様々な事情から学習に困難を抱える児童生徒に過剰な負担がかかる事態が予想されるからである。子どもたちにとって学力は重要なものであるが、注目すべきは一人ひとりの能力や意欲が向上することであろう。2つ目は、ペーパーテストの成績を学力と捉え、点数の向上を学力の向上と見なすことへの懐疑である。

秦野市教育委員会は、児童生徒たちが育成すべき学力を再考していると聞く。具体的には、暗記力や計算スピードなどを競う学習を見直し、グローバル化の進展や人工知能技術が進化した将来の社会において必要とされる能力などを検討している。この点は高く評価したい。次年度以降の成果に大いに期待したい。

秦野市は近隣他市に先んじてICT機器を学校教育に導入している実績を持つ。平成28年度については上小学校を研究指定校とし、児童と教員用に40台のタブレットを導入し、授業などで活用する他に、自宅学習を行うための貸出用タブレットも10台用意して運用している。そこで蓄積されたデータやノウハウは、平成29年の12月に開かれる研究報告会で発表される予定になっている。

ICT教育は教育効果を見極めることが難しいが、実践例を分析し、優れた活用方法を各校で共有する仕組みを充実させて欲しい。このこと（実践の分析と、優れた方法の共有）は、米作りなどの体験学習や、各学校で取り組まれている問題解決型学習などに関しても同様である。

## 主要施策2 いじめ等の対策の推進

### 主要施策3 不登校対策の推進

秦野市は、いじめと不登校の問題にも力を入れている。いじめについては、各小中学校の代表児童生徒による「いじめを考える児童生徒委員会」を開催し、「SOS

カード」を全児童生徒に配布し、「いじめられたら、教えて。皆が見守っていますよ」というメッセージを送る効果を狙っている。

また、小中学校の教員を対象に「ソーシャルスキル研修会」を開き、「いじめ巡回相談事業」として、年間に30回ほど、臨床心理士や学校心理士を各学校に派遣し、児童生徒への適切な相談対応の仕方を指導した。その他に「秦野市いじめ問題対策調査委員会」を年に3回開き、答申も明らかにしている。

不登校対策に関しては、「教育支援教室いずみ」を20年以上運営している実績を持つ。「いずみ」では平素に行っている、スタッフや保護者の方が参加する会議以外に、教育委員会の課長、指導主事を含めた「拡大会議」を年に2回開いている。その会議において、教育行政に携わる職員が不登校児童生徒をもつ保護者の率直な話を伺い、適切な対応を探る機会としている。

いじめや不登校の問題は、改善に向けた取組が難しい問題であることを承知しているが、秦野市には、2017年8月現在、270名の不登校児童生徒がおり、そのうち43名は教育や心理の専門家の対応を受けていないと聞いた。市教委の担当者は、その数字を把握し、43名の将来を案じ、新たに、市内の引きこもり児童生徒への訪問巡回を行う拠点として施行施設の必要性について提案している。

いじめ問題を含めて、当事者である児童生徒や保護者の方の悩みは深いに違いない。市教委は、各学校や先生方の取組を積極的に支援し、秦野市に住む子どもたち一人ひとりの毎日と成長を支える意思を持ち続けて欲しい。

#### **主要施策5 公立幼稚園の配置の見直し**

先述した上幼稚園は、現在、わずかに11名の園児しかおらず、幼児教育において重要な集団性を養うことが難しい状況にある。そのため、近隣の上小学校の余裕教室を活用し、幼稚園を小学校内に移転させた。

秦野市のように公立幼稚園を開設している自治体は少ない。子どもの数が少なくなる中で、今後、どのように充実した公立幼稚園を運営するのかが課題であろう。みなみがおか幼稚園のようにプロポーザル方式によって、運営法人を誘致する方法をとることは現代的な対応といえるだろう。なお、みなみがおか幼稚園については、平成29年5月の公募時に応募した法人について、現在慎重に選定中である。

幼児と保護者の両面から必要とされている支援を探しながら、今後も運営して欲しい。

### 3. 方針2 地域力を生かした子どもと地域が共に育ちあう学校づくりを推進します。

#### 主要施策6 学校支援づくりの推進

西中学校においてコミュニティ・スクール協議会を開設し、平成28年度中に5回の会議を開いた。筆者はその協議会のメンバーであるが、会議は初年度とは思えないほど、活発で率直な意見交換が行われた。そこで協議された学校と地域の連携実績は「西地区ふれあい祭り・西中ふれあいフェスタ同日開催」や、教職を目指す大学生をチューターに招いた「夏休みの学習支援活動」、「中学生地域清掃と炊き出し訓練」などがある。それらの様子は『タウンニュース』に紹介されているため、御存知の方もいらっしゃるであろう。

コミュニティ・スクールは、本来、学校の運営を支援する組織体であるが、同時に地域社会を活性化させる効果を生んでいる。児童生徒たちの成長を手助けするという第一の目的を忘れてはならないが、本取組が地域社会の活力となり、ひいては成人学習を充実させる原動力に育っていくことにも期待したい。

#### 主要施策7 支援教育の推進

特別支援教育ということばは、1978年にイギリス人のマリー・ウォーノックが、自らが議長を務める「障害児・者の教育調査委員会」の報告書に記した時が最初であるとされている。ウォーノックは「特別な教育的ニーズ」を医学的な見地から捉えていたが、現在ではルーツを外国にもっている児童生徒や、貧困家庭にある子どもなどに対象が広がっている。

秦野市は、障害をもつ児童生徒への教育の歴史は古い。昭和59年に肢体不自由児学級を開き、翌年に情緒障害学級を設置している。昭和53年10月に文部省（当時）が「教育上特別な取扱いを要する児童・生徒の教育措置について」を出した7年後に情緒障害児に向けた学級を編成していたことになる。この時期に情緒障害学級を設置している自治体は少なかった。

平成28年度については12小学校、2中学校に45名の特別支援学級介助員を配置し、介助員の研修を2回実施した。また、3小学校、2中学校に12名の発達障害児等支援協力者、メンタルフレンドを派遣した。

特別な支援を必要としている児童生徒は増加傾向にあると言われる。秦野市においても、特別支援学級介助員をはじめ、学校の教員への研修を強化することによって対応している。しかし、いわゆる通常学級に通う子どもたちも個別の支援を必要としていることに変わりはない。今後も「情緒支援学級」や「知的支援学級」、「インクルーシブ教育」の研究に「通常学級」を含め、秦野市に住む子どもたち全員への支援を充実させて欲しい。

#### 4. 方針3 子どもが安全に安心して学ぶことができる快適な教育環境づくりを推進します。

##### 主要施策8 西中学校体育館等複合施設の整備

##### 主要施策9 学校施設長寿命化の推進

西中学校体育館等複合施設の整備については、当初計画の見直し後は順調に対応できていると言えるだろう。近隣住民の期待も大きく、新しい時代の社会教育を牽引する施設に育てて欲しい。

施設の整備には、老朽化した体育館の建て替えという側面もあるが、市民の生涯学習や社会活動を支援する施設としての期待も大きい。今後、グローバル社会や人工知能社会が浸透すれば、経済の二極化は、より進むと想定される。そうなれば、社会教育に求められる役割は大きくなると考えられる。今後、「長く暮らせるまち」として選ばれる自治体には、充実した社会教育活動の存在が不可欠になるだろう。

本施設には「学校を中心とした地域コミュニティ機能の充実」以上の将来性が期待されている。

学校施設長寿命化の推進については、国庫補助金を有効に活用しながら進めて欲しい。秦野市の学校施設は、その多くが建設から30年を超え、中には築50年に迫るものもある。財源の確保は容易ではないだろうが、安全で安心が持てる学習環境の整備に腐心してもらいたい。

##### 主要施策10 教育施設の一体的整備の研究

学校施設等の一体化整備の研究とは、幼稚園や小学校、あるいは小学校と中学校の施設を相互に活用したり、それぞれを一つにした学校を作る研究である。

施設の有効活用という観点が必要であるが、研究の目的は、是非子どもたちの成長に対する効果を第一に考えたものであって欲しい。本報告書に書かれた教育委員会の内部報告では「事前の課題整理や資料収集に時間がかかり、有識者から論点整理に対する助言を求めることができなかった」とあるが、有識者の専門分野を子どもたちの発達や、学力のあり方を研究している者にも広げ、多くの要素を視野に入れた研究を次年度以降に行って欲しい。

##### 主要施策11 学校図書館充実のための学校司書の充実

学校図書館を充実させるために、司書の専門資格を有する学校司書の配置を見直していることは評価できる。

現在11名いる学校司書のうち10名は「特定職員」（非常勤職員）であり、週に4日、一日3～4時間程度の勤務で複数校を掛け持ちしている状態であると聞く。

これでは十分とは言えないが、限られた予算の中で、平成28年度から1名の正規職員（学校教育課所属）を取りまとめ役として加え、学校司書全員を集めた交流会を年に2回開くなど、情報の交換等に努めている点は評価できる。

学校司書の各人は学校の図書室に特設コーナーを設置したり、読書を促すポップを作成するなどの工夫をしている。それらの取組に対して市民や学校から評価を受けられるように、広報やコンテスト等の工夫を検討して欲しい。そして、専門職として努力されている学校司書の方々への報酬を増やす努力も続けて欲しい。

図書館の優劣は司書の力量に大きく左右される。良い図書館をもっている学校は、本が好きな子どもを増やすに違いない。秦野市の子どもたち全員に本の素晴らしさを知ってもらえるよう今後も尽力して欲しい。

## 「教育委員会の点検・評価の生涯学習関係に対する総合評価」

東海大学 名誉教授

逢坂 伸一

### はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」（平成 27 年 4 月施行）により、教育委員会の為すべき事柄がどのように変革していくのか、特に、市民一人ひとりのための社会教育環境はどのような方向を目指すべきなのか、という点に思いを馳せながら、私に与えられた教育委員会事業のうちの社会教育に関する項目についてコメントさせていただきます。

明治期における 2 学校教育を補完する部門としての通俗教育”が、社会教育という名称で大正、昭和時代をすごし、戦後、まったく意図や内容が異なる戦後の民主国家における新たな社会教育として出発したにもかかわらず、現在に至るまで必ずしも十分な理解をされず、未だに社会教育は学校教育を補完する事業であると認識している人も少なくないことは誠に残念なことといわざるを得ない。

さらに、1965 年のユネスコでの生涯教育（数年後に「生涯学習」と言い改められる）についての提言により、わが国においても生涯学習の理念の基に教育行政が推し進められるようになりましたが、未だに「社会教育」についての理解は十分とは言えないようです。

近年、社会教育活動を学校教育と切り離して教育行政を実施する地域も増加しつつあり、本市の場合にも、社会教育事業は学校教育との連携の重要さは認めつつも、広く住民の意見を聴くことも踏まえて、市民部局での対応に舵取りがなされつつあり、今後の事業計画の実施等を経て、その成果が問われることとなりそうです。

私自身も、これまで研究者としてかかわってきた社会教育のあり方を吟味し、新たな行政の動きに対応するために何をすべきなのかを見極めながら教育委員会事業評価についてのコメントをさせていただきたいと思います。

### 1. 身近な学習拠点としての公民館と社会教育

多機能型体育館も含めたに西中学校体育館等複合施設の整備計画は、市内各地域の同様施設についての今後のモデル事業として注目されており、早期の完成が待たれるところです。あわせて、注目したい事業として、公民館や図書館などの長寿命化計画があります。この事業は、建造物の修理修繕などについての予算化が前提ですが、長期にわたっての計画であることから、その施設についての必要性が認識されていると見る事が出来るわけであり、さらに長期にわたる計画が策定されることが期待されます。

また、地域住民にとってもっとも身近な学習拠点であり、交流の場である公民館の存在意義を振り返るためにも、行政と市民による、一箇所ごとの改善計画ではなく、まち全体の楽しい学びのための施設の未来予測などの話し合いの場を設けるなどによって、市民の多くが納得しうるような事業施策の検討も期待したいものです。

## 2. 地域の知の拠点としての図書館と社会教育

全国各地で、公共図書館の運営を民間の協力を得て実施することの是非が問われ、実際に、指定管理者制度などの導入によって、公共図書館の管理運営を民間団体や企業に委託する市や町も増えつつありますが、もし、秦野市立図書館がそうした民間団体などに委託した場合、現在の市立図書館が特色としている地域に埋もれた図書資料の発掘や公開、あるいはブックスタートや移動図書館としてのブックモビル（自動車文庫）などの、市民の声を取り入れた図書館活動がおろそかになりはしまいか、という不安もよぎります。また、市として発行している種々の貴重な資料についての保存についても危惧するところです。

ただし、現状のままでは、まだまだ一部の市民のための図書施設であるという声のあることも事実でしょう。教育委員の評価でも指摘されておりますが、県立図書館や近隣公共図書館とのネットワークの充実や専門図書館としての大学図書館との更なる連携も大切なことであろうと思います。予算の許す範囲ではありますが、公民館図書室のそれぞれを地域文化図書館、山岳図書館、専門研究図書館、幼児児童専門図書館などのように特化することによって、“公民館図書室には古い書物しかないので興味がもてない”、などの声を少なくすることが出来るかもしれません。

知識収集拠点、そして緩やかな読書スペースとしての先進的図書館の充実は、子どもの読書離れを解消するためにも必要であり、さらなる事業の展開を期待したい。

## 3. 文化財や歴史文化資料と社会教育

博物館は先人たちの培った生活の知恵を掘り起こすことによって、現代社会に生きる我々の生活改善に役立てることがねらいであるとすれば、桜土手古墳展示館などが文化や歴史の学びの拠点として市民に活用してもらうことは、市立宮永岳彦記念美術館などとともに博物学の原点に照らしてすこぶる有意義なことと考えられます。

これからも「ふるさと講座」や「市民大学」、あるいは公民館活動などと強

く連携して、博物資料などの活用を行うと同時に、これらの講座などについて、多くの市民の意見を取り入れるために企画・計画段階からの市民参画のあり方にも工夫していただきたい。

また、学校教育との連携を図り、児童生徒のための同様講座などの開設についても視野に入れるべきかもしれません。

#### 4. 学校教育と社会教育

コミュニティ・スクールは地域と共にある学校づくりを進める法律（地教育法 47 条）に基づいた学校運営協議会制度であり、これまで以上に保護者や地域の意見を学校運営に反映させるねらいがあります。保護者や地域の人々の積極的参加、即ち、協働意識を期待しての制度ですが、本市における今回の事業計画では、教育委員会や学校側の働きかけが先行し、地域の人々の理解と協力のための意欲が十分であるとは思われません。更なる告知、広報の努力が必要ではないでしょうか。社会教育委員会議などでの話題にもしながら、市民の喚起を促していただきたい。

既に実施している先進地の報告などによると、いかにして、地域の特色を把握して、学校運営にいかせるかという課題を話し合っている事例を見かけますが、本市においても、法律等にこだわることなく、地域の特色としての、例えば幼小中連携事業の導入、あるいは通学合宿などの民間の事業などとの連携も模索しながら、より良いコミュニティ・スクール、あるいは、「放課後子ども教室」の実現に努力してはいかがでしょうか。

#### おわりに

教育委員会事業への関係各位の評価、そして教育委員の皆様の適切なお指摘やヒントは、直接事業に係わられた行政職の方々にとりましては、厳しすぎるのではないかという評価もあるようですが、市民一人ひとりに目を向けなければならない立場であるとするならば、やむをえない内容ばかりであったと思います。事業の全てが、より一層目標に近づく努力をお願いいたします。

特に、市民部局と教育委員会のさらなる連携強化が最重要事項であろうと思います。

教育委員会は、将来にわたって学校教育施策を中心に事業を展開し、社会教育関係事業は市民部局を中心に策定されることが予測されますが、市民ための学習環境支援のためには、学びの原理としての教育の観点、すなわち教育委員会事業との連携が必須であり、また、地域の特色を生かした学校教育事業を展開するためには、地域の保護者や団体、組織などの、いわゆる社会教育との協働作業が不可欠である

といえるでしょう。いじめ問題撲滅や不登校児の問題についても地域の協力が必要です。公立中学校教師の過労死ラインが全教員の半数を超えるとの指摘もある中、連携を密にすることによって学校教員の働き方改善のための施策とも考えられます。

最後に、市民一人ひとりの生活が今以上に豊かで幸せになるまちづくりのために、「秦野市教育大綱」（平成 28 年 2 月制定）を生かした次期生涯学習推進計画が策定されることを期待して結びとさせていただきます。

## おわりに

秦野市教育委員会による平成29年度の「教育行政点検・評価報告書」を提出いたします。

この点検・評価は、効果的な行政の推進と市民への説明責任を果たすことを目的に、教育行政関係各課等における事務の管理・執行状況について、「教育委員会の活動状況」及び「基本方針に基づく主要施策」の2つの視点から実施しました。

今回の点検・評価の対象となる平成28年度は、わくわく教育プラン（秦野市教育振興プラン）、また、本市の教育の目標や教育施策の根本的な方針となる「教育、学術及び文化の振興に関する大綱（教育大綱）」の実行初年度となることから、点検評価を行う主要施策及び様式等を見直し、この点検・評価報告書を、わくわく教育プラン（秦野市教育振興プラン）の進捗状況について、経年で管理していくものと位置付けました。

主要施策の点検評価に当たって、学校教育や生涯学習の関係者で組織する「教育施策点検・評価会議」において、第三者的な視点からの点検・評価、御意見を踏まえるとともに、学識経験者の総合評価を活用しながら教育委員による点検評価を行いました。

今回の点検・評価結果をフィードバックし、各施策の達成目標に向けて、着実に事業を推進してまいります。

日々変化し、多様化・複雑化する教育課題への迅速で適切な対応が求められる中で、教育委員会の果たすべき役割と使命がますます大きくなっていることを自覚して、本市の教育、学術及び生涯学習の環境整備の総合的な推進を図り、さらなる充実・向上に努めてまいります。

最後に、学識経験者として総合的な評価をいただきました東海大学課程資格センター所長の朝倉徹教授、東海大学の逢坂伸一名誉教授に厚くお礼申し上げます。

併せて、御協力いただきました教育施策点検・評価会議の委員の皆様に、心より感謝申し上げます。

